

平成28年度学校関係者評価報告に示された意見・課題への取組(年度末点検)

- ※1:平成28年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組の進め方を記述し、平成29年4月自己点検委員会で確認した
- ※2:～6月時点の現状・進捗状況を記述し、第1回学校関係者評価委員会に報告した
- ※3:前期中間点検を10月自己点検委員会で確認し、第2回学校関係者評価委員会に報告した
- ※4:年度末点検を平成30年2月自己点検委員会で確認し、第3回学校関係者評価委員会に報告した

大項目	中項目	○28年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方 ※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
重点目標	2. 重点目標と達成するための計画・方法 (1)TPCの育成と強化	○第一の基本方針である、TPC※1の育成と強化については、各学科の特性に応じたさまざまな取組が工夫されて行われており、学校全体として着実に成果を上げている。 ※1:考える力Think、積極性Positive、対話力Communication	継続	校長	■TPCの育成と強化については、組織内に浸透させる段階から、教員個々の教育活動に具体的に反映させる段階に移行しつつある。 ■引き続き、学科運営計画や目標面接等で、具体的な活動計画とその後の進捗状況について確認する。	■各学科の事業計画と運営計画については作成済み。それらを教員個々の具体的な目標へと落とし込むための目標設定シートを現在作成中で、このシートをもとに6月中旬までに目標設定面接を実施する。 ■29年度の各学科の学科運営計画を取りまとめ、サイボウズ上に公開した。	■6月中に目標設定面接を実施した。11月に進捗状況を確認するための中間面接を実施する予定である。	■授業でのTPC育成・強化にかかわる実践的指導については、授業公開等において、教員間での共有化が図られた。 ■学科ごとの具体的な取り組みは、3月23日を期限に提出される各学科の年度末点検で点検・評価される。
	(2)退学防止	○退学防止については、教職員が一致協力した全般的な取り組みにより一定の水準は維持しているものの、平成26年度、27年度ともに目標達成に及んでいない。 ○努力してもなかなか成果が上がらない現状であることから、原因の分析が改めて求められる。 ○また、表れた兆候への早めの対応、指導が大切であることから、引き続き、事前の兆候を掴むための積極的なコミュニケーションの工夫を進めてほしい。 □総評より: 退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると思う。既に取組まれてはいるが、オープンキャンパスにおいては退学者を限りなくゼロにすることを想定した上でのコミュニケーションの工夫が大事だと思う。	継続	校長	■28年度の退学率は退学願未提出者を含めると5.1%(39人)となる見込みで、27年度の5.9%(48人)は下回ったものの、3.5%以下の目標は達成できなかった。 ■退学事由としては、指導努力だけでは防ぎきれないものがほとんどだが、防ぎ得る退学として、AO入試による入学者の入学後のミスマッチを原因とする退学に注目し、次年度において具体的な対策を講じる。	■引き続き「退学防止の事例記録」「退学届・学籍異動の記録」を活用して事例研究を進めるとともに、AO入試による29年度入学者への対策は学生委員会、30年度入学予定者への入学前指導対策は教務委員会の課題として、校務分掌に示した。	■9月末までの退学者は計7名(退学率0.93%)で、昨年同時期の退学者14名(退学率1.84%)を下回っている。AO入試による29年度入学者への対策を学生委員会が検討・実施し、今のところ有効に機能している。 ■30年度入学予定者への入学前指導対策については、教務委員会で実施計画が検討され、次年度に向けて今年度末からの実施を予定している。	■2月15日時点の退学率は1.99%(15名)で、昨年の同時期(24名・3.15%)と比較して退学者数・退学率とも減少した。これから年度末に向け若干名の退学が見込まれるが、最終的に昨年度の退学率を下回することは確実で、退学率3.5%以下の目標達成についても可能性が出てきた。 ■AO入試による次年度入学予定者に向けての入学前オリエンテーションを3月12日に実施することになった。
		○加えて、入学後の学習や学校生活に向けたモチベーションを高めるため、入学前対策として検討を提案している課題設定などについても改めて検討が望まれる。	継続	校長	■28年度の医療秘書科の退学者のほとんどがAO入試による入学者で、しかも上半期の早い時期に集中していたため、医療秘書科のAO入試による29年度入学者の早期の面談実施を含む退学防止策を、学生委員会の「退学防止」担当業務の重点課題とする。 ■また、AO入試による平成30年度入学予定者に対しての、入学前の面接オリエンテーション実施や入学前の課題の工夫を、教務委員会の「入学前指導プログラム」担当業務の課題とすることにした。	■医療秘書科1年生のAO入学者について、入学直後の早い時期に担任による個人面談を実施するとともに、学生委員会の「生活指導・退学防止」担当が4月以降の出席状況や学校生活への適応状況を定期的にチェックすることとし、退学の兆候が少しでもあれば、できるだけ早く対策を講じられる態勢を整えた。 ■AO入試による平成30年度入学予定者に対する入学前指導プログラム案について、教務委員会から6月度の学科長会に提案することになっている。	■医療秘書科のAO入試による入学者を対象に学校生活への適応状況を重点的にチェックする体制が効果を奏し、9月末の時点で、医療秘書科のAO入試による入学者の退学は出ていない。 ■教務委員会が中心となり、AO入試による次年度入学予定者に向けた入学前指導プログラムの改善を検討し、学科長会議で実施計画が承認された。	■医療秘書科では、2月15日の時点でAO入試による入学者の退学は出ておらず、重点的にチェックする体制が効果を奏したと見られる。 ■AO入試による次年度入学予定者に向けての入学前オリエンテーションを3月12日に実施することになった。
(3)教員研修	○授業公開については、試行錯誤が繰り返されているが、授業を客観的に見てもらうのは当たり前という雰囲気とその機会づくりを念頭に、引き続き教員が参加しやすい、効果的な進め方を工夫すると共に、教員個々人のインストラクションスキル向上に努めることを期待する。	継続	教務委員会	■教員がインストラクションスキル(教授力)の向上を目指すよう、環境を整え、機会を提供する。学内での教員研修を年度内2回程度実施し、また個々の教員が自主的に受講する外部研修への参加を促進する。 ■授業公開は、引き続き年度内に実施し、定着化を図る。より良い授業の実現のために互いが客観的な視点を持ち意見交換できる雰囲気と機会を提供できるよう、より参加しやすく効果的な仕組みの構築を目指す。	■教員研修はインストラクションスキル(教授力)向上をテーマに、学内において外部講師を招聘し、年度内2回実施する。内容については、過去のアンケート等も参考にテーマを絞り調整中である。第1回を8月初旬、第2回を3月に実施予定である。また、自己啓発の意識を高め、外部研修への積極的参加を推進するよう、研修案内についての学内での広報に留意している。 ■授業公開は、教員のインストラクションスキル(教授力)向上のための必須の研修であるとの位置付けを明確にし、引き続き学校全体で取り組む。本年度は、昨年とは異なる授業の参観ができるよう前期授業での実施を計り、6月下旬から2週間の期間の全ての常勤教員の授業を公開する。また、本年度は4月全教師会での校長による呼びかけやその他の工夫の効果もあり、兼任講師5名(6/5現在)の参加を得て、学校全体の行事としての更なる発展と定着を図る。	■第1回教職員研修を8月3日に開催した。テーマは「プレゼンテーション研修」、教員31名及び事務職員18名が参加した。2グループに分かれ、3時間ずつ実践演習を含め、伝える力を高めるトレーニングを行った。第2回については2月下旬から3月初旬に「アサーティブコミュニケーション研修(仮題)」の実施に向けて準備中である。 ■外部研修については、9月末現在で昨年同時期の1.5倍の受講者数と、昨年度に引き続き増加している。また、本年度より積極的な研修受講を促進するため、研修費用を補助する「外部研修受講補助費」を新設した。規約を定め、8月より施行、運用を開始した。9月末までに5件の申請があり、3件が承認された。引き続き外部研修の受講を経済的な面からも支援していく。 ■授業公開は6/26～7/7(一部6/28～7/10)の2週間の日程で全学科一斉に実施した。参観者数、参観授業延数とも大幅な増加となった昨年度並みの水準を維持した。特に今年度5名の兼任教員の方が公開した授業の参観者数は14倍と大きく増え、関心の高さがうかがわれた。	■第2回教職員研修を2月27日に実施する。テーマは「アサーティブ研修」で、自他尊重のアサーティブスキルを学び、職場コミュニケーションの活性化を図る。2グループに分かれ、3時間ずつ実践演習を含むプログラムを行う。 ■外部研修の受講者数は引き続き増加している。1月末時点で、昨年同時期比1.37倍であり、大きく増加した昨年度をさらに上回る結果となっている。授業を移動させて研修に参加する例も増え、自主的に研修へ参加する姿勢が定着しつつある。 ■民間外部研修機関の法人会員に登録し、有料の研修を割安で受講できるシステムを構築した。	

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題への取組の進め方 年度末点検

2018/7/31
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	○28年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方 ※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4	
1 教育理念・目的・育成人材像	1. 理念・目的・育成人材像	○本校が目指す人材の育成充実に向けて、学科再編等の検討を引き続き進めてほしい。 ○また、各学科における三つのポリシー※2の再確認は、どのように行うのかを具体的に示したうえでしっかりと進めてほしい。 ※2: ・ディプロマ・ポリシー(卒業認定の方針、学生が身に付けるべき資質・能力の明確化)、 ・カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針、教育課程編成、教育内容・方法、学修成果の評価方法の明確化)、 ・アドミッション・ポリシー(入学者を受け入れの方針、入学者に求める学力の明確化)	継続	校長	■引き続き、校長室を中心に、関連するプロジェクトチームや各学科、募集広報協議会等と連携して、教育課程編成委員会の意見等も参考に、検討を進めていく。 ■三つのポリシーについては、5月中旬を期限として作成される各学科の学科運営計画において改めて確認のうえ、募集活動等にも反映させる。	■学科再編等の検討については、進行中。 ■29年度の各学科の学科運営計画を取りまとめ、サイボウズ上に公開した。	■学科新設を含む、平成30年度の学科再編計画については、予定どおり進行している。 ■医療秘書科等、一部の学科で、三つのポリシーの再検が行われている。	■学科新設を含む、平成30年度の学科再編計画は、予定どおり進化した。 ■医療秘書科等、一部の学科で、三つのポリシーの再検が行われた。学科ごとの取り組みについては、3月23日を期限に提出される各学科の年度末点検で点検・評価されることになっている。	
	2. 育成人材像と業界等の人材ニーズへの適合		○本校の育成する人材は、専門分野に関連する業界のニーズや定められた養成人材像に適合している。 ○職業実践教育を更に充実させるためにも、関連業界との高一層の連携の強化に期待したい。	新規	速記 コンピュータ科	■新学科の開設準備に当たり、字幕・速記業界との連携を継続・強化する。	■字幕・速記業界と連携し平成30年度開設予定学科の準備を進めている。	■関連会社との定期的な打ち合わせにより平成30年度新設予定学科の開設準備を進めている。	■関連業界団体との連携により平成30年度開設予定学科の準備に当たった。 ■PDCAサイクルに基づく教育活動、学科運営を行った。
				新規	医療秘書科	■医療機関の現役職員による特別授業・講話を授業や学科行事において開催し、情報収集、現状理解に努める。	■5月に、1年生全員を対象に「病院で働く」ことに関して、2年生医療事務コース生対象に「医事課におけるレセプト業務」について特別授業を現役の医療機関従事者を講師に招いて実施した。 ■6月の病院実習開始以降、実習先訪問時に状況確認及び情報収集を予定。 ■7月に、1年生全員を対象に国際モダンホスピタルショウの見学を予定。	■5月に、1年生全員を対象に「病院で働く」ことに関して、2年生医療事務コース生対象に「医事課におけるレセプト業務」について特別授業を現役の医療機関従事者を講師に招いて実施した。 ■実習先訪問時に病院担当者から諸情報を収集した。 ■7月に、1年生全員を対象に国際モダンホスピタルショウを見学した。 ■8月の模擬面接会にて病院の人事担当者から諸情報を収集した。	■5月に、1年生全員を対象に「病院で働く」ことに関して、2年生医療事務コース生対象に「医事課におけるレセプト業務」について特別授業を現役の医療機関従事者を講師に招いて実施した。 ■実習先訪問時に病院担当者から諸情報を収集した。 ■7月に1年生全員を対象に国際モダンホスピタルショウを見学した。 ■8月の模擬面接会にて病院の人事担当者から諸情報を収集した。 ■9月に1年生全員を対象に病院見学を実施し、職種内容等について理解を深めた。 ■次年度以降も早い段階で医療機関の役割、業務、職種内容等を理解する場を設ける予定である。
				新規	医療 マネジメント科	■実習先の他、病院職員・業界職員である特別講演講師・兼任講師からの意見を情報収集する。	■兼任講師だけでなく、病院職員である特別講演講師1名、卒業生から情報収集している。	■兼任講師だけでなく、5月に特別講演講師1名、6～10月に実習担当者から情報・意見を収集した。今後は、特別講演講師2名から収集する予定である。	■10月中旬までの実習担当者からの情報収集に加え、8月の模擬面接会において医療機関の人事担当者から情報収集し、その後、10月下旬に特別講演講師1名、11月に特別講演講師1名からそれぞれ情報収集した。 ■2月に医療秘書学会学術大会に教員が出席し、最近の業界と専門分野教育の動向について収集した。
				新規	診療情報管理 専攻科	■日本診療情報学会の参加や就職先・実習先の診療情報管理担当者の意見を収集し、学科運営に反映させる。	■情報収集は継続・実施中、6月まで得られた結果としてDPC請求の実務能力を高める上で、次年度カリキュラムに「DPC実務」の教科を導入予定。	■「DPC実務」の教科を次年度のカリキュラムに反映させるよう進めている。	■平成30年度のカリキュラムに導入済み。
				新規	医師事務技術 専攻科	■実習先医療施設と連携し、実務に直結する専門技能の強化を図る。(実習医療施設の実習指導者の講師による授業を導入し、実習をより効果的にし、職業実践教育を更に充実させる。)	■6月より実習先医療施設と連携し専門技能の強化のための実習を実施中。	■本年度の専門技能強化のための医師事務実習を実施中。	■平成29年度の医師事務実習は実施済み。
				新規	くすり 調剤事務科	■日本チェーンドラッグストア協会の担当者、ドラッグストア企業や調剤薬局企業の採用担当者と毎年、情報交換をしている。 ■どのような人材、どのような教科などが要望されているか情報交換しながら、毎年教科項目などを打ち合わせをしている。	■～6月は、企業の採用担当者が忙しいので、毎年、秋に学生の採用のお礼や次年度の採用のお願いを兼ねて、人材育成や授業科目などの情報交換の打ち合わせで訪問している。本年度もその時期での訪問スケジュールを計画している	■就職内定のお礼・ならびに来年度採用計画のための企業説明会開催のお願い、また日本チェーンドラッグストア協会を含めて今後、どんな人材が求められているか、そのために必要な教科などの打ち合わせ訪問を、秋に予定している	■11月調剤事務検定企業と打ち合わせを行った。12月～2月に5企業と打ち合わせを行った。3月日本チェーンドラッグストア協会と打ち合わせを予定している。今後とも、企業、協会などとコンタクトを継続して、人材育成に役立てていく。
				新規	介護福祉科	業界と連携し、最新の介護の動向や情報を知り、カリキュラム編成や、授業に反映していく。また、業界に協力をいただき特別講義等を通して授業の充実を図る。	■在宅・地域包括システムの理解を深めるため、7月4日に在宅介護事業所長による特別講義を予定している。後期にも2年生を対象に、地域包括支援事業所担当者による特別講義を予定している。	■7月4日に、在宅介護支援事業所長による特別講義を実施し、在宅介護、地域包括ケアシステムの理解を深めた。 ■11月28日に地域包括ケアシステムの実際についての特別講義を予定している。	■11月28日に介護支援専門員連絡会代表による地域包括ケアシステムの実際についての特別講義を実施した。地域包括システムの現状と今後の動向についての知識を得た。
				新規	鍼灸医療科	■ディプロマポリシーにのっとり、臨床実習の強化に努める。 ■平成30年度に向けて臨床実習の外部実習も視野に入れて、充実を図る。	■平成30年度に向けて、業界団体「安産灸ネットワーク」と連携し年間4回の卒業生支援講座を実施している。また、平成30年度に向けて、教員の研修や学会を通して他校との情報交換を行っており反映させている。	■「安産灸ネットワーク」と連携した卒業生支援講座は3/4が終了している。卒業生の参加は一回のみにとどまっている。 ■教員研修は各教員が積極的に参加をしている。引き続き参加予定である。外部研修先は既に10件以上の確保が出来ている。今後も拡大予定である。	■平成29年度の卒業生支援講座は終了している。卒業生の参加は第1回のみであった。平成30年度も年間4回の講座を実施予定である。卒業生に向けてホームページやメールを活用し参加を促す予定である。 ■専任教員は鍼灸分野の研修会や学会へ積極的に参加をし、情報共有を図った。臨床実習に伴う外部研修先については平成30年度4月以降に実習計画の具体化を図る。

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題への取組の進め方 年度末点検

大項目	中項目	○28年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方 ※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
			新規	看護科	■近年看護師の早期離職・転職が社会問題となってきた。故に基礎教育の段階より職業人としての意識を高めていくことが必要と考える。 ■当校では、実習関連施設との連携のもと指導方法の共有をはかり、地に足をつけて働ける「看護実践者の育成」を卒業時のあるべき姿に盛り込んだ。	■1年次早期から臨床現場で看護場面に接していく。 各個人の体験をクラスで共有、深めるために先輩ナース、指導者、教員の指導の下合同カンファレンスを企画していく。 ■実習関連施設とは定期的な会議の場で、指導方法や体制に関して評価・検討していく。	■1年生は9月に1週間の基礎看護学実習を終え、合同カンファレンスを実施した。学生主体で企画、進行され、活発な意見交換がなされた。学びの共有が出来た。 ■4月、6月、9月は実習指導者会にて、当校の専任教員と実習施設の指導者などで情報共有及び意見交換を行った。また、8月には実習協議会を開催した。	■1年生:2週毎のホームルームの時間に各自医療に関して興味・関心を持った事を調べまとめて行く、3月にクラス内でプレゼンテーションを行う。また国試過去問題小テスト実施。 ■2年生:後期の各実習カンファレンスを通して看護の基本概念、職業倫理をテーマに話し合った。 ■3年生:年間を通じての実習から職業人としての意識の醸成をはかる。看護研究、看護観の発表。
	3. 特色ある教育活動、社会人化教育の推進	○本校は、現場での実習を取り入れるなど、各学科において実践的な教育を行っている。 ○さらなる高度化へ向けて、専門分野ごとの教育課程検討の充実、活用を進めるとともに、進行中の介護福祉科の職業実践専門課程認定申請と医師事務技術専攻科の開設準備を遅滞なく進めてほしい。	継続	校長	■介護福祉科の職業実践専門課程の認定、医師事務技術専攻科の開設は、予定どおり実行された。 ■平成30年度に向けては、「字幕制作・速記者養成科」(1年制専門課程)の開設準備を進めている。 ■また、医療事務系の3年目の専攻科教育の拡充を検討課題とし、校長室に調査部会を置いている。	■平成30年度「字幕制作・速記者養成科」(1年制専門課程)の開設準備は、設置準備部会を中心に、募集要項の作成、実施カリキュラムの調整等、予定どおり進行している。 ■医療事務系の3年目の専攻科教育の拡充については、校長室の調査部会で検討中。	■新設学科を含む、平成30年度のカリキュラム編成については、9月末の時点で確定している。 ■医療事務系の3年目の専攻科教育の拡充については、校長室の調査部会で引き続き検討中。	■新設学科を含む、平成30年度のカリキュラム編成については、予定どおり進行した。 ■医療事務系の3年目の専攻科教育の拡充については、校長室の調査部会で引き続き検討中。医師事務技術専攻科は、平成31年度から姉妹校の埼玉女子短大の卒業生も受け入れる予定で調整を進めている。
2 学校運営	1. 運営方針と重点目標	○運営方針は周知されており、常勤の教職員には浸透度の確認も工夫して進めているが、兼任講師の浸透に向けた働きかけの工夫が求められる。	継続	校長	■4月の授業開始前の全教員会・科会で、校長から中期計画や運営方針、重点目標について兼任講師に伝え、併せて授業公開への参加を呼び掛けている。また、授業が始まってからも、随時、兼任講師との連携とコミュニケーションを図ることにしている。	■4月8日の全教員会・科会で、校長から中期計画や運営方針、重点目標について兼任講師に伝え、併せて授業公開への参加を呼び掛けた。また、授業開始後も、随時、兼任講師との連携とコミュニケーションを図っている。	■兼任講師にも配付される12月発行予定の教育研究誌に、校長はじめ全ての常勤教職員が、それぞれの「教育現場からの声」を寄稿する予定である。また、一部の兼任講師から投稿の希望も出ている。	■12月に発行した教育研究誌に、校長はじめ全ての常勤教職員が、それぞれの「教育現場からの声」を寄稿した。また、一部の兼任講師からも投稿があった。
	3. 組織運営	○本校は、校務運営会議のもと校務分掌組織図に役割等を明確にした学科長会議をはじめとした委員会等により学校運営を行っている。 ○引き続き、教職員が協力、連携して組織運営を行ってほしい。	継続	校長	■校務分掌組織図は、前年度末に教職員に配付し、説明・確認している。また、円滑な運用のため、引き継ぎ等も前年度末までに行うようにしている。 ■学校運営にあたっては、各学科・部署がベクトルを共有し、教職員が効果的に連携することを、29年度の重点目標の一つとして、教職員に示している。	■学校運営にあたって、各学科・部署がベクトルを共有し、教職員が効果的に連携するため、随時コミュニケーションの機会を設けている。	■教職員が効果的に連携するため、募集広報協議会や進路指導協議会などの場を、より有効に活用できるよう、働きかけている。	■教職員が効果的に連携するための対策を、次年度の重点目標の一つに加える予定。募集広報協議会と進路指導協議会は、校長が招集し、校長室が運営する形式に改める。
	6. 情報システム	○学事システムの入替に際しては、引き続き個人情報の漏えい防止にしっかりと取り組んでほしい。	継続	事務局長	■現状では、「個人情報・セキュリティに関する運用内規」を順守することが、個人情報の漏えい防止となるため、当面は新たなルール設定を行わずに運用する。	■4月に教職員の利用範囲を次のごとく示した。また、「個人情報・セキュリティに関する運用内規」も運用されているため、漏えい防止に必要な措置は講じられている。 ■学科長・副学科長 担当学科全学年・全クラスの閲覧・面談記録入力 ■クラス担任 担任クラスの閲覧・面談記録入力	■現在まで、情報セキュリティ基本方針及び個人情報・情報セキュリティに関する運用内規が遵守され、問題は発生していない。 今後問題発生を未然に防止するための情報収集を行い、適宜必要な対策を講じる。 ■昨年12月より、個人情報の外部流出防止のため、教職員が使用するPCへクライアント管理ソフトが導入され、セキュリティが高まった。それに伴い、USB接続機器が制限された。	■現在まで、問題は発生していない。 今後問題発生を未然に防止するための情報収集を行い、適宜必要な対策を講じる。 ■昨年12月より、個人情報の外部流出防止のため、教職員が使用するPCへクライアント管理ソフトが導入され、セキュリティが高まった。それに伴い、USB接続機器が制限された。
3 教育活動	1. 目標の設定	○本校は、学校の教育目的、教育目標に基づいて各学科の教育目標を定め、具体的な教育活動をそれぞれのカリキュラム、学科運営計画に示すと共にTPCの育成と強化を基本方針として教育目標の実現を目指している。 ○PDCAサイクル※3に基づく職業実践教育の実現に向けて、引き続き各学科の教育活動における具体的な応用が期待される。 ※3:Plan計画、Do実行、Check点検・確認・評価、Act改善を繰り返す	継続	校長	■中期計画に基づいて、学科の改廃や新設、新規教育事業等の準備を予定どおり進めている。 ■各学科においても、学科運営計画の年度末点検等を確実に実施しており、PDCAサイクルに基づく教育の改善を着実に実行している。	■各学科の28年度年度末点検結果を、4月上旬にサイボウズ上に公開した。また校務分掌上の委員会等、各運営組織の28年度活動報告書を作成し、5月度学科長会において報告内容を確認した。	■各学科の学科運営計画に基づいて、PDCAサイクルによる教育の改善が着実に実行されている。	■各学科の学科運営計画に基づいて、PDCAサイクルによる教育の改善が、徐々にではあるが、着実に実行されている。
			継続	速記コンピュータ科	■業界からの情報収集及び業界団体との連携を推進し、新学科開設に向けた計画、実行に当たる。	■業界団体との連携により平成30年度開設に向けた新学科の計画・実行に当たっている。 ■PDCAサイクルに基づく教育活動、学科運営を行っている。	■関連会社との連携により平成30年度新設予定学科の開設準備を進めている。	■平成30年度開設予定学科のカリキュラムを構築し、授業内容や運営方法の検討を行った。
			継続	医療秘書科	■病院実習を中心にPDCAサイクルの継続による教育活動の充実化を図る。	■これまでの病院実習から得た情報をもとに、学生の学びに対する心がけやマナーを実習指導等に活かしている。 ■今後のカリキュラム編成や学校(もしくは学科内)行事の在り方を確認する。	■これまでの病院実習から得た情報をもとに、学生の学びに対する心がけやマナーを実習指導等に活かしている。 ■今後のカリキュラム編成や学校(もしくは学科内)行事の在り方を確認中である。	■実習先病院や実習生、インターンシップ専攻生から得た情報をもとに、学生の学びに対する心がけやマナーを実習指導等に活かしている。 ■各授業や学科内での行事等でグループワークの機会を増やし、人との連携の重要性を認識してもらおう。
			継続	医療マネジメント科	■学生の教育において、病院実習を中心としたPDCAサイクルに基づく取り組みを実施する。	■病院実習については、これから開始されるので、具体的な取り組みについては今後進める予定である。	■病院実習は、完全には終了していない。現時点においては、学生各人が報告書・レポートを作成・提出、パソコンの授業の中でまとめを作成・発表することで、振り返りとしている。	■病院実習終了後、学生各人が報告書・レポートを作成・提出、パソコンの授業の中でまとめを作成・発表することで、振り返りとした。 ■学生各人が提出したアンケートをベースにして、次年度の実習指導やマナー・接遇の授業内容に活かす予定である。
			継続	診療情報管理専攻科	■外部情報をPDCAサイクルに基づき教育内容に導入し、教育活動に活かす。(医療・経営統計の資料作成や分析の重要度が増しているため関連教科担当教員に伝え対応力強化対策を継続する。)	■授業での医療・経営統計の資料作成や分析力強化対策を実施中。	■授業での医療・経営統計の資料作成や分析力強化対策を継続している。	■病院マネジメントⅠ、医療情報とデータベース演習Ⅱの授業で継続実施している。
			継続	医師事務技術専攻科	■外部情報をPDCAサイクルに基づき教育内容に導入し、教育活動に活かす。(学会・就職先・実習先からの意見を情報収集し教育内容に反映する)	■就職先・実習先からの意見の収集は実施中。学会情報は9月と11月の参加で収集予定。	■就職先・実習先からの意見の収集は実施中。学会情報は9月と11月の参加で収集を継続中。	■就職先・実習先・学会情報を収集しH29年度の教育内容に反映させている。

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題への取組の進め方 年度末点検

大項目	中項目	○28年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方 ※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
			継続	くすり 調剤事務科	■調剤事務の教科について、本年度から、医療秘書科、医療マネジメント科、くすり・調剤事務科で使用するテキスト、検定先を統一し、本年度2月に関係学科生徒に同時受験実施を目標として設定し、調剤事務の教育レベルの最低確保を目指す	■全学科で調剤事務のテキスト、検定先の統一を予定通りに実施した。各学科の1月検定受験を目指して授業を進めている	■平成30年1月検定予定の各学科の受験者数や合格率などを踏まえて、効果や問題点などを検証する予定	■平成30年1月28日(日)医療秘書科、医療マネジメント科、くすり・調剤事務科の合同で検定を実施した。可否の結果は、2月末頃に通知される。合格率を検証して、今後の対応を検証していく。
			継続	介護福祉科	■授業や定期試験では、国家試験問題に触れている。教員間では、授業進度表にチェックし共有している。国家試験対策の一つとして、任意で11月に福祉事務管理技能検定受験を予定している。 ■7月に実習先の訪問介護事業所長による介護実習Ⅳ(在宅介護)オリエンテーションの実施を予定している。 ■6月に2年生は第2回目、10月に第3回目の国家試験模擬試験(全国統一模試試験)を予定している。 ■個々の進捗を定期的に確認し、個々に合った指導をしていく。	■国家試験対策の一つとして、科目介護福祉事務を開設している。 ■6月27日に第2回介護福祉士国家試験模擬試験を予定している。 ■第1回の国家試験模擬試験結果をもとに、個別面談を6月に実施中。個々の取り組みの確認をし今後の学習計画を立てていく。 ■7月4日に、実習先の訪問介護事業所長による介護実習Ⅳ(在宅介護)オリエンテーションを予定している。	■前期に科目介護福祉事務を修了し、11月26日に福祉事務管理技能検定を任意で受験予定。 ■6月27日に第2回介護福祉士国家試験模擬試験を受験した。10月に個人面談を実施し、弱点克服に向けての指導を強化していく。 ■科目介護福祉ゼミⅡでは、分野別に担当教員が解説していく。 ■1月13日、22日に兼任講師による、国家試験受験対策講座を予定している。	■11月26日に国家試験対策の一つとして、福祉事務管理技能検定に、2年生5名が3級受験し全員合格した。 ■11月29日に介護福祉士学力評価試験に1、2年生が受験した。 2年生は国家試験受験への最終調整をした。1年生は受験により、理解度の確認ができた。 ■兼任講師による受験対策講座を、1月13、22日の2日間実施した。 ■科目介護福祉ゼミⅡでは、分野別に担当教員が重要箇所の確認と解説をした。
			継続	鍼灸医療科	■平成30年のカリキュラム編成に伴い、現状のカリキュラムの開講時期や内容について見直しを図る。 ■また、臨床実習の単位数増加に伴い、医療人としてのマナー強化と実践的にかつ臨床力を身につけられる内容を検討する。	■平成30年度カリキュラム編成については既に着手しており、既存教科を含めヒアリングを行いながら再検討を行っている。 ■臨床実習に向けた事前実習の内容については、業界のニーズも視野に入れて編成している。	■平成30年度に向けて現行のカリキュラムの見直しと新規科目の導入を図り東京都への申請を提出済み。 ■業界のニーズを考慮し、美容鍼灸、婦人科疾患に特化した実技実習を平成30年度より新たに開講する。臨床実習は外部実習施設で積極的に行う方向で、進めている。また、平成30年度に向けて内部臨床実習施設の充実を図る。	■平成30年度のカリキュラムは東京都より2回目の意見書がだされ、修正し2月 日に提出済みである。従来の実技実習に加え、美容鍼灸、スポーツ鍼灸、婦人科鍼灸を新たに加えた。また、薬の知識を学ぶ授業を追加し他校との差別化を図った。 ■付属臨床施設は看板とパンフレットを作成、設置している。それに伴い解説時間を変更を行っている。
			継続	看護科	■国家試験出題傾向の変化(5肢2択問題、状況設定の長文化的の増加)に対応すべく、低学年より読解力・総合的な判断力を身に付けられるよう講義内容の工夫を検討して行く。	■外部講師の先生方も、国家試験の傾向と動向について関心を示して下さる為、現状と課題の説明をしながら、講義内容のリクエストを伝えている。 ■常勤教員は、それぞれの授業の中で国家試験問題を意識的、意図的に活用している。	■国家試験関連のトピックスや、資料については教員間で情報共有をして指導に役立っている。 ■専任教員はもとより、外部講師の先生方も国家試験の問題集をコピーして該当する内容を織り交ぜて講義している。	■前期同様国家試験関連のトピックスや、資料については教員間で情報共有をして指導に役立っている。 ■専任教員はもとより、外部講師の先生方も国家試験の問題集をコピーして該当する内容を織り交ぜて講義している。
2. 教育方法・評価等 (1)教育目的・目標に沿った教育課程の編成		○カリキュラム編成においては、職業実践教育の視点、PDCAサイクルによる編成プロセスを維持してほしい。	継続	校長	■平成30年度に向けて、「字幕制作・速記者養成科」の開設準備、また制度変更に伴う「鍼灸医療科」のカリキュラム改定等を行うことにしている。	■7月3日を期限として、各学科に平成30年度生のカリキュラム案提出を依頼している。「字幕制作・速記者養成科」の開設準備については設置準備部会で、「鍼灸医療科」のカリキュラム改定は当該学科において、予定どおり準備を進めている。	■「字幕制作・速記者養成科」「鍼灸医療科」を含む各学科の、平成30年度生カリキュラムについては、9月末の時点で確定している。	■「字幕制作・速記者養成科」の開設準備、「鍼灸医療科」のカリキュラム改定については、予定どおり実行された。
			継続	速記 コンピュータ科	■職業実践教育的視点で専門職に直結したカリキュラムの構築を目指す。	■平成30年度開設予定学科の開設準備を進めている。	■平成30年度新設予定学科のカリキュラム策定後、シラバス作成作業を進めている。	■平成30年度開設予定学科のカリキュラムを構築し、授業内容や運営方法の検討を行った。
			継続	医療秘書科	■医療事務に関する学びをより深め、より高度な領域への興味・向学心を持つ学生の増加促進に向け、資格試験合格のみにこだわらず、専門領域の教員(医師等を含む)による授業を多く配置するよう努める。	■基礎力の定着とコミュニケーション能力の向上を意図したカリキュラム編成を検討する。 ■「介護保険の基礎」を次年度必修とする。 ■未開講コースの見直しを検討予定。	■基礎力の定着を図り、1年生の各種検定試験受験時期を秋へと移行した。 ■「介護保険の基礎」を30年度必修科目とした。 ■未開講コースの見直しを検討予定。	■基礎力の定着を図り、1年生の各種検定試験受験時期を秋へと移行した。 ■「介護保険の基礎」を30年度必修科目とした。 ■未開講コースの見直しを行い、31年度のコース編成を改めた。
			継続	医療 マネジメント科	■教育課程編成委員会での意見を、カリキュラム策定・授業運営・教員研修に反映させる。	■教育課程編成委員会での意見を、次年度のカリキュラム策定、今年度の授業運営と教員研修に反映させる予定である。	■30年度カリキュラム(案)については、前年度に引き続き、社会人基礎力・パソコンスキルの育成を重視するほか、診療報酬請求事務等の専門9科目のリニューアル・配置変更等を実施した。 ■教員研修については、8月に医療事務系研修会に1名、9月に診療情報管理学会に1名が参加した。	■30年度カリキュラムについては、社会人基礎力・パソコンスキルの育成を重視するほか、診療報酬請求事務等の専門9科目のリニューアル・配置変更等を実施した。また、診療情報管理士科目については、日本病院会の新カリキュラムに対応させた。 ■10月以降の特に専門分野の教員研修については、10月に診療情報管理系研修会に1名、2月に医療事務系研修会に4名が参加した。3月には医療事務系研修会に1名が参加予定である。
			継続	診療情報管理 専攻科	■29年度では実習日誌の評価欄を活用し検証を行う。	■6月の時点では実習評価は1施設得られている。全ての実習評価が得られた時点で検証予定。	■実習評価を検証中。	■平成29年度の実習評価は検証済み。
			継続	医師事務技術 専攻科	■教育課程編成委員会での意見を参考にし、授業や実習に反映させる。	■本年度の教育課程編成委員会の開催後に検討する。	■医師にアドバイスできる程度の診療報酬請求知識の指導(導入)を検討中。	■診療報酬請求知識の指導は担任により実施済み。
			継続	くすり 調剤事務科	■平成29年4月の段階では、まだ調剤補助についての新しい資格内容の発表がなく、今後も情報入手に心がけ、資格取得に必要な内容を検証したうえで、職業実践専門課程の申請をするかどうか(学科名が変更になると、その後2年間は申請できなくなることも踏まえ)、検討する	■現時点で、まだ調剤補助資格の新しい情報がない	■現時点で、まだ調剤補助資格の新しい情報がない	■現時点で、まだ調剤補助資格の新しい情報がない。

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題への取組の進め方 年度末点検

大項目	中項目	○28年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方 ※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
(2)教育課程への外部意見の反映	○本校では、職業実践専門課程の認定学科は勿論のこと他の学科においても教育課程編成委員会や本委員会での意見、提案をはじめ、外部意見を十分に反映してカリキュラムを編成している。 ○職業実践教育の効果については、卒業生や就職先等の評価を確認するための調査も望まれる。	○コマシラバスの検討に際しては、科目の特性による適応の是非に配慮することが望まれる。	継続	介護福祉科	■6月の1年生の介護実習Ⅰより、実習手引きを配付し、実習施設との連携と実習目的を理解し、目標に沿った実習ができるよう指導していく。 ■昨年度に続き、7月に訪問介護事業所所長による訪問介護についてと後期には、地域包括ケアシステムについての特別講義を予定している。 ■教育課程編成委員会での意見を参考にし、授業や実習の整備をしていく。	■1年生の介護実習Ⅰ(第1段階介護実習)を6月12日～6月27日で施設と連携し実施する。 ■教育課程編成委員会の意見を参考にし、授業や実習の整備を継続している。	■今年度より実習手引きを活用し、円滑に実習ができるよう整備した。 ■1年生は、介護実習Ⅰ6月12日～27日(第1段階介護実習)を修了した。2年生は、介護実習Ⅲ9月11日～10月11日(第3段階介護実習)を、修了した。	■実習手引きを活用し、円滑に実習ができている。 ■教員も手引きを活用することで、指導がしやすくなった。 ■介護技術(生活支援技術Ⅱ)の科目に、兼任講師を配置し技術科目の向上を図った。
			継続	鍼灸医療科	■第25回はり師きゅう師国家試験の出題傾向は例年より大幅な変更がみられた。問題と学生の回答率との分析を行い、学科教員間での情報を共有している。一部、テキストの見直しを図った。 ■今後、婦人科分野の導入を検討している。それに先駆け卒業生を対象とした婦人科領域講習会を年4回開催する。	■国家試験問題について、学科教員会で情報の共有化、平成29年度の授業内容に反映させている。 ■婦人科領域講習会は第1回目を開催し、卒業生のモチベーションアップへと繋がっている。	■夏季休暇中に集中講義を行った。模擬試験の問題や結果については、教員間で情報共有が出来ている。 ■婦人科領域講習会は第3回まで終了しているが、卒業生の参加がみられない。第4回目に向けてインフォメーションを行う予定である。	■9月、10月、12月の国試模擬試験を実施し、データに基づいて学生へ個々の面談を実施。内容と結果について国試教科担当教員間で情報共有ができています。 ■平成30年度も、年間4回の婦人科領域講習会を計画している。平成29年度の卒業生を含めインフォメーションを3月に行う予定である。 ■平成30年度臨床実習の大幅な拡大に伴い、実習計画案に沿って3月中に検討する。
			継続	看護科	■厚労省及び実習施設が打ち出している卒業時に求める能力を教員間で咀嚼し、教育方法を見直し、何を大事に教育を行っていくか、教員間で話し合う機会を持って行く。	■昨年度末から新年度早期にかけて、学科教員会議において、看護科のめざすべき教育の方向性について話し合う時間を持った。それをもとに、看護科の「入学生受け入れ方針」を作成した。	■8月9日:夏期教員研修を行う。テーマは「早稲田速記看護科としての教育方法の再考」とし、どのような学生を育てたいか(ディプロマポリシーをふまえて)学生をどう学ばせたいか。という視点から3年間のラダー案作成中	■来年度に向けては、学生の成長を見据えたカリキュラムポリシーを再構築するため、戦略的な会議を設け、何をどのように学ばせたら良いか教員間で意思統一を図っていく。
		継続	校長	■検定対策等、コマシラバスが有効と思われるケースについて、具体的に検討を進める。 ■また29年度から始まる「体系的な指導案の作成をテーマとした中堅教員向けの教員実践研修(東京都専修学校各種学校協会・東京都私学財団 主催)」に常勤教員を数名参加させる。	■6月から9月にかけて開催される「体系的な指導案の作成をテーマとした中堅教員向けの教員実践研修(東京都専修学校各種学校協会・東京都私学財団 主催)」に、常勤教員を2名参加させることにしている。	■コマシラバスについて、医療事務教科系研究会で検討に着手した。 ■「体系的な指導案の作成をテーマとした中堅教員向けの教員実践研修(東京都専修学校各種学校協会・東京都私学財団 主催)」に、常勤教員が2名参加した。	■コマシラバスについて、医療事務教科系研究会での検討は進展が見られなかった。検定対策等、コマシラバスが有効と思われるケースがあれば、具体的な検討を、引き続き学科や教科系に働きかけた。	
		新規	医療事務教科系研究会	■1年生の診療報酬は医療秘書科、医療マネジメント科の複数の教員で担当しているため、授業内容の一定の質を保持する目的で、オリジナルテキストを作成している。 ■また、授業は基本的にはシラバスに即して展開しているが、学科ごとの教員間で進捗状況や学習目標に到達しているか、頻繁に確認し微調整を行いながら進めている。実践に即応していると考えており、今後も継続していく予定である。	■オリジナルテキストは定期的に見直しを行い、ブラッシュアップしていく。 ■学科ごとの教員間で、授業の進捗状況確認のための打合せや情報交換を継続、実施中である。	■診療報酬に関する授業はコマ数が多いため、学生の到達度チェック、授業内容の微調整を適宜打合せし、実行している。現段階では有効であると考え、継続、実施中である。 ■来年度の診療報酬点数改定に向け、使用オリジナルテキストの改善案を収集した。今後検討する。	■シラバス講義要項を基に、より詳細な授業進度表を作成し、授業や検定対策を実施している。学科ごとに担当教員間で進捗状況、学生到達度をチェックし、必要に応じて微調整しながら授業を進めていく現状のやり方が有効であり、一定の成果を上げている。今後も継続していく予定である。 ■平成30年度診療報酬点数改定に伴い、2、3月に点数改定の情報収集を行い、オリジナルテキストを来年度の授業に間に合うよう、リニューアルする。	
		新規	速記コンピュータ科	■外部意見を参考にし、実習にかかわる部分には特に、カリキュラム編成上重点的に反映する。	■関連業界の意見を取り入れながら平成30年度開設予定学科のカリキュラム内容、実習方法等について検討中である。	■30年度新設予定学科のカリキュラムやシラバス等に関連業界の意見を反映させている。	■30年度新設予定学科のカリキュラムやシラバス等に関連業界の意見を反映させた。	
		新規	医療秘書科	■教育課程編成委員会での意見を参考にし、授業や実習に反映させる。外部意見を反映してカリキュラムを編成する。	■各委員会からのご意見をはじめ、病院実習先、卒業生等からの情報を収集中。	■各委員会からのご意見をはじめ、病院実習先、卒業生等からの情報を継続して収集中。	■各委員会からのご意見をはじめ、病院実習先、卒業生等から有益な各種情報をいただいた。 ■カリキュラムだけでなく、病院見学・実習等の指導に活用する。	
		新規	医療マネジメント科	■求人先・就職先・卒業生から、情報をリサーチする。	■卒業生懇談会において、卒業生から求人先や業界の情報をリサーチしている。	■5月は懇談会において卒業生から求人・就職先の情報について、7月は教育課程編成委員会と学校関係者評価委員会において業界情報について、それぞれ収集した。	■2月に卒業生支援講座・懇親会において、卒業生から求人・就職先の情報について収集した。 ■2月に教育課程編成委員会、3月に学校関係者評価委員会において、それぞれ情報収集する予定である。	
		新規	診療情報管理専攻科	■教育課程編成委員会での意見を参考にし、授業や実習に反映させる。外部意見を反映してカリキュラムを編成する。	■本年度の教育課程編成委員会の開催後に検討する。	■外部意見の反映を検討中。	■教育課程編成委員会からはカリキュラムに関する意見・指摘は得られていない。	
		新規	医師事務技術専攻科	■実習先の意見を反映してカリキュラムを編成する。	■実習先の意見を収集中。	■実習先の意見収集を継続中。	■平成29年度も意見収集を継続中。	
新規	くすり調剤事務科	■不定期ではあるが卒業生の就職先への訪問による企業現場での聞き取り、くすり科の同窓会に参加した卒業生の現況や要望の聞き取り、企業の採用担当者への卒業生の状況聞き取りを実践している。	■2月26日(土)第3回いちご会(学科同窓会)を実施して、8名の卒業生の参加があり、卒業生の現況や要望などをヒアリングした。また、学校での会社説明会開催の打ち合わせの際にも、企業側の採用担当者にヒアリングをしている	■2月26日(土)、第3回いちご会を開催し、卒業生8名の参加があった。現況報告ならびに要望などのヒアリングを実施した。今後の学科運営に生かしていく	■今回のいちご会は、平成31年2月～3月の開催を予定している。次回は、もっと参加者を増やすため、Gメール、ラインなどを利用して、参加を促すとともに、開催を昼食時間帯でなく、夜の時間帯での開催を予定している。			

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題への取組の進め方 年度末点検

2018/7/31
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	○28年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方 ※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
			新規	介護福祉科	■教育課程編成委員会の意見を反映し、今後の介護の動向を踏まえたカリキュラム編成と授業の見直しをしていく。	■教育課程編成委員会の意見をもとに、講師を招き特別講義を実施している。 ■5月16日に卒業生懇談会を実施した。懇親会では、情報交換をし施設の現況を把握した。	■5月16日の卒業生懇談会では、各分野で活躍している卒業生からの最新の状況を得ることができ、就職動向へと繋がられた。	■平成31年度より、新カリキュラムに変更が予定されている。教育課程編成委員会の意見も参考にし、カリキュラム編成をしていく予定。 ■卒業生が来校した際に、業界の情報を提供してもらっている。
			新規	鍼灸医療科	■卒業生との交流イベントを開催している。就職先については、長期的な就職に至っていない傾向が多く、就職先からの評価は難しいと感じている。様々な勉強会や交友会を通じ卒業生からの情報収集に努める。また、Gメールを利用して定期的にヒアリングを実施する。	■5月に交流イベントを実施したが卒業生の参加に至らなかったが卒業後研修会では3名の参加があり就職先や勤務状況についてヒアリングが行えた。今後、卒業生に向けてアンケートなどを行う必要性を感じている。	■卒業生に向けたアンケートの実施は現時点で行っていない。継続案件であり、今後実施予定。	■卒業生の動向についてのアンケート調査は今年度中に実施できていない。平成30年度の継続案件である。 ■平成30年度の交流イベントや卒業生支援講座の参加を早期に促し、ヒアリングを予定している。
			新規	看護科	■6月にホームカミングdayを開催し、その際卒業生にアンケートを実施している。その結果を各就職施設に郵送し、卒後教育の体制を検討する機会に役立ててもらっている。	■6月25日にホームカミングdayを企画。現在準備中である。	■6月25日(日)ホームカミングdayを実施した。卒業生35名中25名の参加があり、盛況だった。同期、教員との再会で悩みや愚痴を表出していた。アンケートは集計結果を各施設へ郵送した。	■次年度のホームカミングdayについては今年度同様の実施する予定。退職防止につなげるべく、採用施設との連携はかかっていく。
			新規	CSC	■実習および内定先への訪問に際し、医療機関等の評価を確認している。 ■今後卒業生との連絡方法の確認を兼ねて、今年度27年度生のGメールでの調査を実施したいと考えている。	■現在、実習先への訪問に際し、医療機関等の評価を確認している。 ■今年度中に27年度生のGメールでの調査を考えている。	■実習先への訪問に際し、医療機関等の評価を確認しているところである。 ■今年度中に27年度生のGメールでの調査を考えているが、まだ行ってはいない。	■実習先への訪問に際し、医療機関等の評価の確認を実施した。 ■今年度3月中旬に27年度生のGメールでの調査を行う。
(3)キャリア教育の実施	○本校におけるキャリア教育は、キャリアサポートプログラムにより行っている。 ○実施効果をさらに高め、また時代の変化に対応するように、教育課程編成委員会や本委員会の意見、提案などを参考に、引き続きプログラムの見直しを行ってほしい。	継続	CSC	■キャリアサポートプログラムに関して、時代の変化に即し、協議会と連携し、教員とともに改編を行う。 ■また学生が取り組み易く、積極的に関わられるという観点も重要であり、その点からも見直しを行う。	■現在、協議会にてキャリアサポートプログラムの内容について検討を進めている。 ■学生が取り組み易く、積極的に関わられるという観点から見直しを行っている。	■協議会にてキャリアサポートプログラムの内容について検討を進めていて、昨年度一部の学科で行っていた医療事務系の過去問解説を医療事務系学科全体で行うこととした。 ■学生が取り組み易く、積極的に関わられるという観点から、グループディスカッションを医療事務系学科にて今年度より、1年生プログラムに取り入れる。	■協議会にてキャリアサポートプログラムの内容の見直しを行い、昨年度一部の学科で行っていた医療事務系の過去問解説を医療事務系学科全体で行う特別講座として実施し、申込者が76名であった。 ■学生が取り組み易く、積極的に関わられるという観点から、グループディスカッションを医療事務系学科にて今年度より、1年生プログラムに取り入れ実施した。	
		継続	進路指導協議会	■キャリアサポート関連の諸課題について、教員およびCSC職員で協力して改善策を探っていく。 ■課題としては、引き続きよりよい就職先の確保、内定辞退の削減、またより学生が積極的に関わられるキャリアサポート関連の行事について等を考えている。	■現在一回目の協議会を開催し、キャリアサポート関連の諸課題について、検討中である。 ■一回目の検討課題として、よりよい就職先の確保、キャリアサポートプログラムの改善等に関して協議した。	■現在まで三回の協議会を開催し、キャリアサポート関連の諸課題について検討し、学生が取り組み易く、積極的に関わられるという観点から、グループディスカッションを医療事務系学科にて今年度より、1年生プログラムに取り入れる。 ■検討課題として、よりよい就職先の確保等に関して協議し、昨年度一部の学科で行っていた医療事務系の過去問解説を医療事務系学科全体で行うこととした。	■今年度三回の協議会を開催し、キャリアサポート関連の諸課題について検討した。学生が取り組み易く、積極的に関わられるという観点から、グループディスカッションを医療事務系学科にて今年度より、1年生プログラムに取り入れ実施した。 ■検討課題として、よりよい就職先の確保等に関して協議し、昨年度一部の学科で行っていた医療事務系の過去問解説を医療事務系学科全体で行う特別講座として実施し、申込者が76名であった。	
		新規	進路指導協議会	■教員および職員一丸となって、よりよい就職先の確保や内定辞退の削減等の諸問題について、まずはその重要性の認識から統一を図っていく。その上で、その対策を全員で考える。	■現在一回目の協議会を開催し、キャリアサポート関連の諸課題について、検討中である。 ■一回目の検討課題として、よりよい就職先の確保、キャリアサポートプログラムの改善等に関して協議した。	■現在まで三回の協議会を開催し、キャリアサポート関連の諸課題について、意思統一を行った。 ■検討課題の中で特に内定辞退を減らす方策として、今年度もインターンシップの開始時期を遅らせることやしっかりと休日の確保などを引き続き行っていくこととした。	■今年度三回の協議会を開催し、キャリアサポート関連の諸課題について、意思統一を行った。 ■検討課題の中で特に内定辞退を減らす方策として、今年度もインターンシップの開始時期を遅らせることやしっかりと休日の確保などを実施し、その結果、1月末現在の辞退者は1名であり、昨年度の同時期6名より減らすことができた。	
(4)授業評価	○アンケート結果をより有効に活用する意味からも、引き続き定期的な見直しにおいて、必要な改善を進めてほしい。	継続	点検委員会	■授業アンケートは、前期アンケートからの改訂実施を目標に教員以外が配付・回収を行い、集計の一部を翌週速報する、また集計結果へのコメントも記述する方向で作業中である。 ■学校生活に関する調査は、授業アンケートの改訂が終了次第、12月改訂実施に向けて作業する。	■5月点検委員会で29年度改訂による前期授業アンケート実施計画を作成した。6/26～30に実施する。集計結果へのコメント記述は、前期は委員会におけるトライアルで実施する。 ■学校生活に関する調査は、12月改訂実施に向けて7月から作業する。	■前期授業アンケートの結果は実施翌週に速報、9月に集計報告を担当教員に手渡した。全体の集計報告は7月点検委員会で確認し、10月に学内公表を予定している。 ■集計結果へのコメント記述は、前期は委員会におけるトライアルで実施した。後期は常勤教員での実施をしている。 ■学校生活に関する調査は、12月改訂実施に向けて作業中であり、10月の点検委員会で改訂の確認を行う予定。	■後期授業アンケートの結果は実施翌週に速報、2月に集計報告を担当教員に手渡した。全体の集計報告は1月点検委員会で確認し、2月に学内公表している。 ■アンケート集計結果へのコメント記述は、2/14教職員全体会において説明し、常勤教員を対象に後期より実施を開始した。3/31までに提出する。 ■学校生活に関する調査は、挨拶アンケートと共に11月末までに3年毎の改訂を終了し、12月に改訂版で実施した。 ■来年度は両アンケート共に改訂による新たな課題を確認して、改訂版の微調整を行う予定。	
3. 成績評価・単位認定等	○在校生のコンテストや研究発表における受賞は、本校教育の成果を表すものであることから、積極的にアピールすることを引き続き検討してほしい。	継続	速記コンピュータ科	■業界団体主催イベントへの参加機会を確保する。	■10月実施の業界団体主催イベントに対して学生に参加を促す予定である。	■10月7日に行われた速記競技会に学生3名が参加した。	■速記競技会への参加を促し学生3名が参加した。	
		継続	医療秘書科	■2年生が卒業前に1年生に対して実習報告を発表する場を設け、2年生にはプレゼンテーション能力確認を、1年生には実習に関する心構えを準備する機会を設ける工夫をする。	■6月から病院実習が開始され、今後作成されるの報告書をパソコン演習の授業にて発表可能な体裁へと完成度を高める準備中である。	■病院実習がほぼ終了。各学生が実習報告書をパソコン演習の授業で学ぶプレゼンテーションソフトを活用し、発表可能な体裁へと完成度を高める準備に取りかかるところである。	■各学生が病院実習報告書をプレゼンテーションソフトを活用し、パソコン演習の授業で発表した。 ■2年生の就職内定者の代表が、1年生全員に向け、病院実習や就職活動について発表した。 ■今後も上級生から下級生へと繋ぐ情報伝達場の充実を図っていく。	

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題への取組の進め方 年度末点検

2018/7/31
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	○28年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方 ※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
			継続	医療マネジメント科	■4年生が、神奈川県病院協会主催の学術大会等において、発表する予定である。それ以外については、今後検討する。	■4年生が、神奈川県病院協会主催の学術大会等において、発表する予定である。	■9月に4年生が、日本診療情報管理学会学術大会において、研究発表をした。今後は、2年生を含めて学術大会への参加と発表をする予定である。	■2月に2年生が日本医療秘書学会学術大会において研究発表し、日野原重明賞を受賞した。
			継続	診療情報管理専攻科	■実習報告会を継続する。	■後期に実習の報告会を実施予定。	■10月中旬に実習の報告会を実施予定。	■11月に実習の報告会を実施済み。(医療情報データベース演習Ⅱの授業で)
			継続	医師事務技術専攻科	■実習報告会を実施する。	■後期に実習の報告会を実施予定。	■10月中旬に実習の報告会を実施予定。	■11月に実習の報告会を実施済み。
			継続	くすり調剤事務科	■本校から、セルフメデュケーションアワードで特別賞1名、奨励賞2名が表彰された。特に特別賞の1名の生徒は、登録販売者の役割についての投稿内容をパワーポイントでドラッグストアショーの開催中のセミナー会場で多くの関係者の前で発表する機会があり、業界での学校の評価向上におおいに寄与することができた。 ■本年度も、くすり科1年生の積極的な投稿を指導していく。	■投稿申し込みが12月～1月であるので、いまのところ具体的な行動実績はない。10月以降に準備に入る予定である	■本年度は、投稿締め切りが12月15日と、通常より1カ月早いので、担当教師にはその旨を連絡し、1年生全員の投稿の指導をすでに依頼した	■くすり・調剤事務科1年生19名が投稿した。結果は、3月のドラッグストアショーで発表予定している。
			継続	介護福祉科	■12月にケーススタディ発表会の実施を予定している。国家試験の関係から、実施時期を前倒しとした。 介護実習Ⅲ終了から発表までの期間が短いため、まとめ方と発表方法については検討中である。 ■実習後の実習報告会を継続していく。	■12月のケーススタディ発表会は変更なく実施予定である。進行については、検討中である。 ■1年生の介護実習Ⅰ(第1段階介護実習)後の、実習報告会を7月3日に予定している。	■12月19日に、ケーススタディ発表会(1年生も参加)を予定している。 ■1年生の介護実習Ⅰ(第1段階介護実習)報告会を、7月3日に実施し、各々が学んだことを発表し共有した。 ■6月27日に実施した第2回介護福祉士国家試験模擬試験結果も踏まえ、個別に対応していく。	■12月19日に、2年生のケーススタディ発表会を実施し、1年生も参加し双方の学びとなった。 ■10月16日に実習報告会を実施、介護実習Ⅲ(第3段階介護実習)の振り返りをした。
			継続	鍼灸医療科	■引き続き、「鍼灸ゼミⅠ」でのテーマに対する発表と「臨床実習Ⅱ」での臨床報告会を行う。臨床報告会では早期のインフォメーションを行い、より多くの参加者を募る予定である。	■1年生「鍼灸ゼミⅠ」では学科教員が参加し6月中旬に実施予定である。3年生「臨床報告会」については後期に向けた準備を行っており、他学科への参観も呼びかける予定である。	■「鍼灸ゼミⅠ」は発表済み。「臨床報告会」は12月中旬を予定しており、他学科へのインフォメーションを行う予定である。	■「臨床報告会」は2年生も参加し終了している。介護福祉科のケーススタディ発表会と重複した為、平成30年度は日程の調整を検討し、介護科との連携に繋げていきたい。
			継続	看護科	■「看護研究発表会」「看護観発表」を通じ3学年合同の学びの機会を持って行く。その際、広報室の取材を受け外部へのアピールを行っていく。	■3年生は実習が開始となり、実践教育の場で自己のテーマを深め、後期に文章化して発表に持って行く。	■9月20日(水)看護研究発表会を実施。1・2年生も参加して活発に質問や意見を述べていた。3年生も発表を通してプレゼンテーション力が培われた。3学年合同の貴重な学びの機会となった。	■3月7日(水)3年生の看護観発表に3学年合同で参加する。その際、3年生一人一人から後輩へのメッセージを伝えてもらう予定。
新規	広報室	■各学科と連携し、上位資格の取得者等について本校のブログやラインに掲載している。 ■今後の課題としては、学科との連携を密にして情報の共有を図り、積極的にアピールしていくことが挙げられる。	■くすり・調剤事務科の外部表彰学生や学習奨励奨学金に関するブログの掲載など、ホームページのブログにおいて各学科と連携し積極的に進んでいる。	■学科毎の行事について事前調査を行い、ホームページの新着情報コーナーにおいて、検定上位級合格者や資格試験合格者をピックアップして学生本人が作成した記事により紹介している。今後も継続して実施していく。	■ホームページの新着情報コーナーで、検定試験優秀賞や学習奨励奨学金採用者などの記事のほか、症例報告会等の学習成果の発表に関する記事も紹介しており、良好な状況である。今後も継続して実施していく。			
(2)資質向上への取組	○授業公開は、まだ定着に向けた段階であり、試行錯誤が繰り返されているが、教務委員会による新たな運営に期待したい。	継続	教務委員会	■授業公開は、引き続き修正を加えながらより良い仕組みを構築し、定着化を目指す。昨年度実施後のアンケート等を参考に、より参加しやすく効果的な方法を探り、学校全体で取り組む行事として定着させ、インストラクションスキル(教授力)向上の機会とすることを目標とする。	■授業公開は自身の教授力向上のため有意義であるとの意識を高め、教職員全体で取り組むことにより、引き続き定着を図る。実施に際しては、昨年度の総括より実施方法や書式に修正を加え、より簡潔でおおかつ十分である参加しやすい仕組みを構築した。また要望や意見の多かった参観マナーについて、啓発のための「参観Q&A」を作成した。 ■また、本年度は兼任講師に対して、参加方法の簡略化を図り、さらに個別での説明の機会を設ける等の仕掛けを行い、5名(6/5現在)の参加を得ることができた。昨年度より大幅に浸透してきており、今後は学校全体の行事としての更なる拡大を目指す。	■授業公開は昨年度と同じ2週間の日程で全学科一斉に実施した。大きく増加した昨年度とほぼ同程度である参観者数97%、参観授業延数107%を達成した。 ■看護科に関しては、実習による不在が多く参観者数が減少したが、次年度に向けより参観しやすい仕組みを構築するための意見交換を行った。今後は学科の特性に配慮しより良い方法を検討する。 ■参観マナーについては「参観Q&A」の啓発により改善され、アンケートでの指摘はなかった。 ■今年度5名の兼任の先生方が公開した授業の参観者数は他と比較して非常に多く、参観レポートでの評価も高い。また、兼任教員の方から他校での取り組みなど参考になる意見を多く寄せていただいた。 ■今後は兼任教員への更なる拡大に加え、意見をもとにより良い仕組みを目指し取り組んでいく。	■次年度は後期実施を目指し、準備する。 ■参観者数の低かった看護科については、授業公開期間、方法について検討、見直しを行い、参観者数の増加を目標とする。 ■兼任教員の更なる参加を促進するため、今年度の報告書を基に授業公開紹介文書等の作成、配布を検討する。	
(3)教員の組織体制	○学生の日常指導における常勤教員と兼任講師間の連携と協力を引き続き進めてほしい。 □総評より: 学生のコミュニケーション能力の育成に向けた授業の中での先生方の様々な取り組みの説明を受け、とても真剣に取り組んでいるが、今後も情報交換を一層進めて、学校全体が良くなっていくように努力を続けてほしい。	継続	校長	■4月の授業開始前の全教員会・学科教員会で、常勤教員と兼任講師との学生指導に関する連携とコミュニケーションを呼び掛けた。授業が始まってからも、各学科において、兼任講師との連携とコミュニケーションを図っていくことにしている。	■4月8日の全教員会・学科教員会において、校長から常勤教員と兼任講師との学生指導に関する連携とコミュニケーションを、改めて呼び掛けた。授業開始後も随時、各学科で兼任講師との連携とコミュニケーションを図っている。	■各学科において随時、兼任講師との連携とコミュニケーションを図っている。 ■授業公開や教育研究誌の場を活用した、常勤教員と兼任講師の交流も、徐々に広がりを見せている。	■各学科において随時、兼任講師との連携とコミュニケーションを図った。 ■授業公開や教育研究誌の場を活用した、常勤教員と兼任講師の交流も、徐々にではあるが、広がりをかせている。	
		継続	速記コンピュータ科	■兼任講師との日常的な連携と協力を進め、学生指導、クラス運営に生かしていく。	■兼任教員とは学生状況に関して情報交換を行い、学生対応に役立っている。	■兼任講師と学生情報の共有に努めている。	■平成30年度開設予定学科のカリキュラムを構築し、授業内容や運営方法の検討を行った。	

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題への取組の進め方 年度末点検

2018/7/31
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	○28年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方 ※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
			継続	医療秘書科	■学生からの「欠席等届」を介した担任と教科担当教員相互による状況確認の頻度を高め、各クラス、各学生の共有情報を増やすよう努める。	■「欠席等届」に加え、1年生全員と2年生の一部を対象に、毎週のふり返りシートの記入を求め、それらの情報をもとに担任・教科担当教員・学生委員会間で状況の把握と情報の共有を図っている。	■各週のふり返りシート記入による学生の状況確認ができつつあると感じた。 ■欠席者情報をきっかけに担任と教科担当教員間の情報共有が進みつつある。	■各週のふり返りシート記入による学生の状況確認ができた。 ■欠席者情報をきっかけに担任と教科担当教員間の情報共有が進んだ。 ■退学者数の減少に繋がった。 ■更に工夫をし、継続する予定である。
			継続	医療マネジメント科	■常勤教員間の打合せ、兼任講師との情報交換・共有により、授業運営のみならず検定対策・学生指導に役立っている。	■常勤教員間の打合せ、兼任講師との情報交換・共有により、補講・授業変更を実施して、検定対策を実施しており、また、学生指導の参考にもしている。	■学科における会議・日常的な打合せにより、情報共有・意見交換を行ない、前期は5～6月を中心に授業変更・補講を実施して検定対策等とした。また、出席状況・成績が芳しくない学生についてのフォローも実施した。	■学科における定期的な会議の実施、日常的に打合せを実施することにより、学科運営・学生指導に役立っている。 ■兼任講師との関係性は悪くはないが、今後はそれをさらに密接なものにし、また講師に対して学科の運営方針をより徹底させる等の課題はあると思われる。
			継続	診療情報管理専攻科	■兼任講師との打合せや情報交換等を実施し、授業・学生指導、認定対策等について成果を上げることを目指す。	■兼任講師との打合せや情報交換を継続・実施中。	■兼任講師との打合せや情報交換により診療情報管理士認定試験対策実施中。	■診療情報管理士認定試験の変更内容を兼任講師とも共有し平成29年の受験指導を行った。
			継続	医師事務技術専攻科	■兼任講師との打合せや情報交換等を実施し、専門教育・学生指導について成果を上げることを目指す。	■兼任講師との打合せや情報交換を継続・実施中。	■兼任講師との打合せや情報交換により診療報酬請求事務能力認定試験対策検討中。	■10・11月に診療報酬請求事務能力認定試験対策実施済み。
			継続	くすり調剤事務科	■特に要望したのは、1年生の退学防止の協力、また新2年生の授業アンケート評価結果改善のための授業の進め方などの考慮を、兼任講師に依頼している。	■機会あるごとに、講師とのコミュニケーションに努めている	■講師の授業担当曜日に、学科の情報を伝達したり、問題点などについて、頻回に話をしている。	■機会あるごとに、講師とコミュニケーションをとっている。
			継続	介護福祉科	■学科会を通じ、授業進度表の記録継続を依頼し協力を得ている。 ■国家試験問題を兼任講師と共有している。 ■兼任講師との情報交換を密にし、連携を図っている。	■授業進度表の継続をしている。 ■兼任講師とは、授業の様子等の情報交換をし、指導に役立っている。 ■授業や定期試験時には、国家試験問題を織り込んだ授業展開をしている。	■兼任講師、教員間でも国家試験に向けての授業や、定期試験問題にも織り込まれ浸透している。 ■他の科目の進路状況を進度表で確認し、調整ができています。	■兼任講師とは、授業の様子や国家試験についての情報の共有をしている。 ■各科目の進度表を確認し、授業計画に反映している。
			継続	鍼灸医療科	■引き続き、授業内の様子は適宜ヒアリングを行い兼任講師、常勤教員間で日々情報共有を行う。国家試験関連の教科については、特に授業の進捗状況を確認し学生のモチベーションアップにつなげる。	■兼任講師、常勤教員間では各学年担任を中心とした情報共有を図っている。特に1年生は入学後のミスマッチ等について、3年生は国家試験対策と卒業に向けての準備に配慮している	■前期授業アンケート結果を配布済みである。学生情報や国試関連授業について、日々情報共有を行っている。	■後期アンケートの結果について配布済みである。兼任教員とは授業日に情報共有を行い学生指導に役立っている。引き続き、早期問題解決に向けて連携を図る。
			継続	看護科	■授業内の様子は日々兼任講師、常勤教員間で情報共有を行う。 ■実習に関しては、引き続き臨床指導者との情報共有を図っていく。	■授業公開、授業アンケートの機会も活用しながら情報共有を図りつつ実践中。 ■6月実習指導者会、7月実習協議会開催予定。	■授業公開、授業アンケートを活用して情報共有を図りつつ実践中。 ■定期的に実習施設の会議を開き、実習環境の調整を図っている。	■後期は専任教員と個人面談を実施する。その際授業公開、授業アンケートを活用して情報共有を図りつつ振り返りを行う。 ■引き続き定期的に実習施設の会議を開き、実習環境の調整を図っている。
4 学修成果	1. 就職率	○学生の多くは、学校求人を中心に就職活動を行っていることから、引き続き求人先の確保・開拓に努めてほしい。	継続	CSC	■学生の希望勤務地に合わせた医療事務系求人への確保に努めていきたい。そのために求職調査票や学生との面談を通じての希望勤務地の情報収集を行う。	■現在、学生の個別面談を通じて希望勤務地や希望職種の情報収集を行っている。	■学生の個別面談を通じて希望勤務地や希望職種の情報収集を行い、今年度については、特に医療事務系の求人状況が非常に早いこともあり、その情報を活用し、早期の内定獲得に役立てられている。	■学生の個別面談を通じて希望勤務地や希望職種の情報収集を行い、今年度については、特に医療事務系の求人状況が非常に早いこともあり、その情報を活用し、早期の内定獲得に役立てられた。 ■1月末時点での内定率は91.3%であり、昨年度同時期の84.0%よりアップした。
			継続	校長	■引き続き、各学科の運営計画に年度目標を明示し、年度末に結果について検証する。資格・検定取得状況等のデータについては、サイボウズ上に公開し、教職員が閲覧できるようにしている。	■資格・検定取得の年度目標を示した29年度の各学科の学科運営計画を取りまとめ、サイボウズ上に公開した。資格・検定取得状況等については、随時更新されたデータがサイボウズ上に公開されており、教職員が閲覧できるようになっている。	■資格・検定取得についての状況は、サイボウズ上で公開しており、各学科や医療事務教科系研究会で、合格率を向上させるための具体的対策が講じられている。	■資格・検定取得についての状況は、サイボウズ上で公開し、各学科や医療事務教科系研究会で、合格率を向上させるための具体的対策が講じられた。学科ごとの状況は、3月23日を期限に提出される各学科の年度末点検で検証される。
			継続	速記コンピュータ科	■学生個々の目標達成に向けた個別指導を含め、授業内外において検定対策を行う。	■授業内外において個別指導を含む検定対策を行っている。	■検定対策の機会を授業外に設けるとともに就職内定先の事情と学生の状況等を考慮し、個別に対応している。	■授業時間外において速記検定対策の機会を設け、必要に応じ個別対応を行った。
			継続	医療秘書科	■一部教科目における進捗別クラス編成授業を継続するとともに、1年次前期に基礎力の定着を意識した授業に努める。	■2年生の診療情報請求事務Ⅲにおいて進捗別クラス編成を継続実施中である。 ■1年生に対しては、6月時点での検定受験を促さず、基礎力の定着を心がけた。	■2年生の診療情報請求事務Ⅲにおいて進捗別クラス編成を継続実施中である。 ■1年生の診療報酬請求事務Ⅱにおいても進捗別クラス編成を一部取り入れた。 ■1年生に対しては、6月時点での検定受験を促さず、基礎力の定着を心がけた。	■2年生の診療情報請求事務Ⅲ・Ⅳにおいて進捗別クラス編成を継続実施した。 ■1年生の診療報酬請求事務Ⅱにおいても進捗別クラス編成を取り入れた。 ■1年次での診療報酬請求事務能力認定試験合格者数がこれまでで最多であった。 ■次年度も継続し、効果検証をする予定である。
	2. 資格、免許の取得率	○資格・検定取得の目標は、専門学校教育の大きなテーマの一つであることから、その取組と成果を本校の強みとして謳えるように、引き続きしっかりと進めてほしい。	継続	医療マネジメント科	■各年度毎に学科目標を設定し、それについて年度当初に各教員に徹底した上で対策を実施してもらい、その結果を確認する。	■学科目標については、打合せや面談等を含め、様々な機会に各教員に告知することにより、徹底している。	■学科目標については、年度当初の学科会議において明確に示した。その後は取得状況結果を確認し、それに基づき教員との面談や打合せをしながら、目標数値の達成を目指している。	■学科目標については、目標数値の達成を目指している現状であるが、年度末に達成状況について最終確認・検証する。また、それをベースにしながら、さらに近年の専門分野の動向・ニーズを参考に、次年度の学科目標を設定する予定である。

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題への取組の進め方 年度末点検

2018/7/31
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	○28年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方 ※1	■現状・進捗状況 ※2	■中間点検 ※3	■年度末点検 ※4
			継続	診療情報管理専攻科	■学科目標を設定し、課題を明確にし、関連教員へ対策を依頼し、学生の取り組み状況・結果を確認する。	■関連教員との診療情報管理士認定試験の本年度の合格目標の確認と対策は依頼済み。学生の取り組み状況確認は継続中。	■診療情報管理士認定試験対策状況・学生の取り組み状況の確認継続中。	■診療情報管理士認定試験対策実施済み、
			継続	医師事務技術専攻科	■学科目標を設定し、課題を明確にし、関連教員へ対策を依頼し、学生の取り組み状況・結果を確認する。	■関連教員との教育目標の確認と対策は依頼済み。学生の資格取り組み状況確認は継続中。	■関連教員の指導状況と学生の資格取り組み状況を確認継続中。	■医師事務作業補助者認定資格全員取得済みを確認済み
			継続	くすり調剤事務科	■合格率全国平均44%の発表があり、本校では全国平均を上回ったが、来年度も本校としては、生徒100%合格を目標としている。	■8月以降から試験が順次、各都道府県で開始されるので、試験対策の準備に入りつつある。具体的な試験対策は、7月と8月の夏休み中に試験対策授業を実施する予定である	■7月と8月に試験対策授業を実施した。合格などの結果は10月中旬に発表がある	■登録販売者試験合格者、くすり・調剤事務科2年生22人中17名合格(合格率77%、全国平均は約45%)。1年生は4名合格した。
			継続	介護福祉科	■国家試験の取り組み状況を、5月の面談の際に確認し個々に合った指導をしていく。 ■提出した課題のチェックをし、個別にコメントし指導をしていく。	■面談を6月に実施中。国家試験模擬試験の結果からみた個々の弱点を伝え、克服に向けた学習指導をしている。	■6月27日に第2回介護福祉士国家試験模擬試験を実施した。10月12日から個別面談を実施している。 ■10月27日に第3回介護福祉士国家試験模擬試験を実施予定。 ■11月29日に第4回介護福祉士国家試験模擬試験を実施予定。	■10月27日、11月29日に介護福祉士国家試験模擬試験を実施した。 ■2年生は、1月の国家試験前までに定期試験を終了し、国家試験中心の授業スケジュールとした。 ■1月28日に国家試験を受験し、自己採点では全員合格基準に達した。
			継続	鍼灸医療科	■国家試験合格率100%を念頭に置き、学生の指導方法の改善を図る。昨年の反省を生かし、早期対応にあたる。各学生の習熟度に合わせた学習計画を作成し、実行できる環境をつくる。	■モチベーションアップに繋がる様、学生には細やかな声掛けを行っている。授業内では積極的に習熟度テストを実施してい	■全教員間で国試までの方向性を確認している。また、授業内での小テストや課題を強化するなど工夫している。夏季集中講義や空き時間を利用し国試対策に取り組んでいる。	■国家試験は3年生15名中14名が卒業見込みとして受験申請を行った。 ■後期より、朝と昼休みを利用し国試対策に取り組んだ。2月13日に直前模試を実施。2月25日の国家試験までに特別補講を実施した。
			継続	看護科	■国家試験合格率100%を目指して、低学年からの国家試験対策を見直して行く。現行の指導方法を継続すべき点と改善点を教員間で検討して行く。	■現在取組中である。	■夏期教員研修(8/9)にて、本年度国家試験対策の振り返りと後期に向けての方策を話し合った。その内容を各教員が意識して今後の指導に当たっていく。	■来年度に向けて、現役生の低学力者対策強化が必要。1年次よりサポート体制を構築していく必要があると考える。
			新規	医療事務教科系研究会	■資格検定取得については合格率向上を目指し、過去問題集や模擬試験の作成、補講授業の実施、また検定結果のデータ分析を行い、学科ごとのカリキュラム変更点の提案を行っている。今後も引き続き実施する予定である。	■学科ごとの資格検定取得への取り組みに対して、授業展開を進めている。	■進捗別クラス編成、前倒し授業は一定の成果を上げているため、今年度も引き続き実施する。後期検定に向けての準備を経て、指導を開始した。	■検定取得対策として、進捗別クラス編成、前倒し授業等は予定通り実施された。年度末に、学科ごとの目標達成状況を確認、検証する。 ■診療報酬点数改定に伴い、各種検定過去問題集のリニューアルを2月から4月にかけて行う。
	3. 卒業生の社会的評価	○本校卒業生は、就職先において高く評価され、多くの信頼を得ているが、職業実践教育の評価の観点からも、就業動向の定期的な把握が必要であり、訪問、面談をはじめ、Gメールによる調査も進めて、引き続き状況把握に努めてほしい。	継続	CSC	■求人訪問・病院訪問時に聞き取り確認をしている。今後、Gメールを活用した卒業生への調査を考えており、まずは27年度卒業生の動向を確認したい。	■現在、実習訪問時に聞き取り確認をしている。また今年度は27年度卒業生の動向を確認したいと考えている。	■実習訪問時に聞き取り確認をしているところである。また今年度は27年度卒業生の動向を確認したいと考えているが、まだ行っていない。	■実習訪問時に聞き取り確認を行った。また今年度3月中旬にGメールを活用し、27年度卒業生の動向を確認する。
5 学生支援	1. 就職等進路	○就職指導と活動支援の内容は、環境の変化への迅速な対応が必要であり、引き続き担当職員のスキルアップとプログラムの改善等を進めてほしい。	継続	CSC	■実習・内定先より各業界の最新情報を収集し、WCSPへ反映させるようにしている。昨年度実施したキャリアサポートプログラムでの改編を検証し、よりよいものにしていく。 ■また、担当職員の資格取得、研修への参加を積極的に行っている。	■現在、実習先より各業界の最新情報を収集しており、WCSPへ反映させるようにしている。 ■担当職員の資格取得、研修への参加を積極的に行っている。	■実習先より各業界の最新情報を収集しているところである。 ■担当職員の研修への参加を積極的に行っているところであり、学内および学外ともに参加している。	■実習先より各業界の最新情報を収集した。 ■担当職員の研修への参加を積極的に行った。学内および学外ともに参加している。
	2. 中途退学への対応	○本校では、担任、学科長をはじめ、関係者が連携、協力した退学防止の取り組みにより一定の水準は維持しているものの、平成26年度、27年度ともに目標が達成できていない。 ○入試区分や入学動機の強弱、入学後の学習や学校生活への適応をはじめ、退学の原因は年によって傾向が異なるが、新たに開始した情報共有の仕組みを効果的に利用して、引き続き防止活動を進めてほしい □総評より： 退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると思う。既に取組まれてはいるが、オープンキャンパスにおいては退学者を限りなくゼロにすることを想定した上でのコミュニケーションの工夫が大事だと思う。	継続	学科長会議	■「学籍異動の記録」・「退学防止の事例記録」に加えて「欠席等届」を活用する等、各事例の情報を個人情報保護に抵触しない範囲で共有し退学率抑制に役立てる。	■「学籍異動の記録」・「退学防止の事例記録」に加えて「欠席等届」を活用する等により、退学率抑制に役立てている。	■「学籍異動の記録」・「退学防止の事例記録」に加えて「欠席等届」を活用する等により、退学抑制に役立てている。また、担当部署の1つである学生委員会により、「退学防止調査票」を作成し、退学抑制につなげるべく活用している。 ■退学防止のための外部ツールである「hyper-QJ」の導入、あるいはその具体的活用について検討している。	■「学籍異動の記録」・「退学防止の事例記録」に加えて「欠席等届」を活用する等により、退学抑制に役立てている。また、担当部署の1つである学生委員会により、「退学防止調査票」を作成し、退学抑制につなげるべく活用している。 ■退学防止のための外部ツールである「hyper-QJ」の導入、あるいはその具体的活用について検討している。
			新規	広報室	■入学前に学校と学科のことをよく知ってもらうことを目的の一つとして、オープンキャンパスに2回以上来校すると入学検定料が免除される制度をとっている。ほとんどの入学者が複数回来校し、本制度を利用している。 ■来校時は在校生、教員との懇談も取り入れ、学習、学生生活について理解を深めるようになっている。今後は個別相談において、学費、奨学金等、入学相談室からの説明を強化していく。	■個別面談希望者や特待生指定校の生徒・保護者に対して、希望する内容について説明を行っている。また、本年度は保護者説明会を開催し、就職状況や学費、奨学金制度等の詳細について担当部署の担当者より説明を行う機会を設けている。	■計画どおり、6,7,8月に保護者説明会を開催し、奨学金担当者、就職担当者も参加して全体説明を行うほか、希望者に対して個別での相談に対応した。 ■説明資料のリーフレットは表現を簡素化して内容が分かりやすいように工夫し、4月より使用している。	■6,7,8月に各1回、保護者説明会のオープンキャンパスを実施した。教育方針や各学科の特徴、就職状況、学費・奨学金に関する内容で実施した。次年度については、体験授業と同日に開催し、教育方針、就職状況、学費め奨学金の内容を保護者に説明するようメニューを変更して実施する。 ■説明資料については改訂版を引き続き使用する。
			新規	速記コンピュータ科	■オープンキャンパス、入学選抜の機会において資質やレディネスに着目・確認し、必要に応じて課題を提供する。	■現時点においては機会を得ていない。	■オープンキャンパス参加者に対し、職業理解、技能取得面を中心に学科説明をした。	■来校者に対し学科の特性と専門分野の職業、求められる能力、適性を具体的に伝えた。

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題への取組の進め方 年度末点検

大項目	中項目	○28年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方 ※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
			新規	医療秘書科	■アドミッションポリシーを学校案内書はもとより、オープンキャンパスにおいても来校者に伝え、進学先選定の一助としていただく。	■学生募集要項にアドミッションポリシーを表記している。 ■保護者説明会、オープンキャンパス等において、アドミッションポリシーをはじめ、学びや卒業時点までの目標を説明している。	■学生募集要項にアドミッションポリシーを表記している。 ■保護者説明会、オープンキャンパス等において、アドミッションポリシーをはじめ、学びや卒業時点までの目標を説明している。	■学生募集要項にアドミッションポリシーを表記している。 ■保護者説明会、オープンキャンパス等において、アドミッションポリシーをはじめ、学びや卒業時点までの目標を説明している。 ■アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを明確に伝えたい。
			新規	医療マネジメント科	■学科紹介・懇談・質疑応答の場においては、学科の全体像だけでなく、出来るだけ学科の実像を伝える、その上で入学を検討・判断してもらう。	■学科紹介・懇談・質疑応答の場においては、出来るだけ学科の実像を伝える形態で運営している。	■オープンキャンパスにおける学科紹介や保護者説明会では学科の全体像について伝え、その後の懇談や質疑応答においては出来るだけ実像・実態に即して伝える形式で実施した。	■オープンキャンパスにおける学科紹介や保護者説明会、個別の学校見学において、できるだけ実像・実態に即して丁寧に伝える形式で実施した。この方針は、出願状況にも寄与していると思われる。
			新規	診療情報管理専攻科	■進級規定に則って進級試験を実施する。面接試験では学科の教育目的を十分に説明し、併せて学生個々の進級目的の明確さも確認することで進級時のミスマッチを防ぐ。	■進級試験を後期に実施予定。	■筆記試験実施中、面接は11月中旬に実施予定。	■11月末に面接試験実施済み。
			新規	医師事務技術専攻科	■進級規定に則って進級試験を実施する。面接試験では学科の教育目的を十分に説明し、併せて学生個々の進級目的の明確さも確認することで進級時のミスマッチを防ぐ。	■進級試験を後期に実施予定。	■面接を実施予定。	■11月末に面接試験実施済み。
			新規	くすり調剤事務科	■オープンキャンパス参加者には、2回以上の学科説明会参加を促すとともに、入学審査を厳格にした。その結果、2名の入学不合格者があった。 ■本年度も、オープンキャンパス参加者には、2回以上の参加を促していく。	■オープンキャンパス参加者に、再度、参加することを勧めている	■2回以上の参加者が7名、入学申込につながった	■2回以上の訪問だけでなく、授業参観も積極的に勧め、3名の学生が授業参観、その3名とも入学申込を行った。
			新規	介護福祉科	■本科生の退学は18期生以降ゼロのため、今後も継続していけるよう学生と教員間のコミュニケーションをとっていく。 ■学生の変化に気づき、直ぐに対応ができる体制を整えておき、状況の悪化防止に努める。	■入学前と入学後のミスマッチが生じないよう、入学後も学生の変化に注意し、引き続き退学ゼロを目指している。	■入学前の意思が継続できるよう、心配な学生には声掛けし、必要に応じ面談をしている。 ■入学前の高校生がどのようなところに不安を抱えているのかを察知し、オープンキャンパスでは丁寧に説明をしている。	■9月と1月に退学者が2名いた。1名については進路変更の理由だった。進路については、複数回のオープンキャンパスへの参加を促し、十分な説明をしていきたい。
			新規	鍼灸医療科	■職種内容に加えて、職域とニーズについても十分説明をしている。なりたい鍼灸師象についてイメージを持てるよう体験授業の内容に幅を持たせる。	■入学希望者には、学びの特色を十分に説明し、イメージしやすい体験授業の内容を工夫している。将来に対して不安を感じている保護者についても十分時間をさいて対応している。	■9月末付けで退学者が1名あった。オープンキャンパスでは鍼灸師象について十分理解できていたとの事であったが在学中のカリキュラムについての認識が甘く、学業不振により退学に至った。	■オープンキャンパスでは、鍼灸の職域や学びについて理解しやすく、参加者個々に合わせた説明を行った。 ■1年生の保護者には、学園祭時に面談の機会を設け入学後の様子について情報交換を行った。2名の保護者からの申し込みがあった。平成30年度実施予定である。
			新規	看護科	■入学後の学習内容、環境になじみず退学となってしまうケースもあるので、入学前から学習内容についてはイメージ化出来るような説明を心掛けていく。	■入学前学習を対象学生全員に取り組みでもらった。ほとんどの学生は全クール実施して評価に至ったが、3名はスケジュール通りに運ばなかった。入学後の指導に生かしていく	■より効果的な入学前学習とするために、今年度の反省を含め8月～担当者間で次年度に向けての方法を検討している。	■看護学生スタートブック(藤井徹也著)が評判となって多くの看護大学、専門学校でテキストとして活用されている。当校も来年度は入学前及び入学後のオリエンテーションで活用していく方針。
(1) 経済的側面に対する支援体制		○緊急時における公的な制度と合わせた本校独自の支援などの経済的支援策について、奨学金制度の見直しの中で検討を進めてほしい。	継続	校長	■経済的な支援があれば防げたであろう退学のケースも毎年一定数見られる。給付型奨学金など、現在整備されつつある公的な制度と合わせた、在校生に対する新たな経済的支援策等も、具体的に検討したい。	■給付型奨学金など、現在整備されつつある公的な制度と合わせた、在校生に対する新たな経済的支援策等については検討中である。また、緊急時には、可能な範囲で学内の既存の奨学金制度等を、臨機応変に活用できるようにしている。	■給付型奨学金など、現在整備されつつある公的な制度と合わせた、在校生に対する新たな経済的支援策等については、引き続き検討中である。また、緊急時には可能な範囲で学内の既存の奨学金制度等を、臨機応変に活用できるようにしている。	■給付型奨学金など、在校生に対する新たな経済的支援策等については、現在整備されつつある公的な制度の動向を見ながら、引き続き検討中である。緊急時には可能な範囲で学内の既存の奨学金制度等を、臨機応変に活用できるようにしている。
5. 保護者との連携		○保護者との連携については、先行事例を参考に連携の仕方を工夫することをはじめ、保護者会についても引き続き検討してほしい。 ○また、成績等の報告についても個人情報の保護をはじめとした必要な検討を進めた上で、改めて実施に向けた検討が望まれる。	継続	校長	■本年度のオープンキャンパスにおいて、保護者説明会を3回予定している。また、4月の入学式終了後の会場で、保護者に対して、学校説明を行い、学生指導への協力を呼び掛けた。 ■入学後の保護者との連携は、個々の学生に関して指導上の問題が起きた場合については十分に行われているが、保護者会の開催や保護者への成績の報告等は、学科ごとの課題としている。	■6月以降のオープンキャンパスで、保護者説明会を3回予定している。また、4月の入学式終了後の会場で、保護者に対して、学校説明を行い、学生指導への協力を呼び掛けた。 ■入学後の保護者への成績の報告等は、学科長会等において検討中である。また、保護者会の開催については学科ごとの課題としており、一部の学科で開催が計画されている。	■オープンキャンパスで、保護者説明会を3回開催した。 ■入学後の保護者への成績の報告等は、学科長会等において、引き続き検討中である。また、保護者会の開催については学科ごとの課題としており、介護福祉科が6月に開催した。	■次年度は、オープンキャンパスでの保護者説明会を4回予定している。 ■入学後の学生の保護者への成績の報告、保護者会の開催等については、学科長会において、引き続き検討中である。
			継続	事務局長	■保護者会とは異なるが、29年4月の入学式において、保護者・ご家族の方へ学校の取り組みと家庭での協力をお伝えした。 ■成績等の報告については、送付自体に問題は無いと思われるので、送付に向けての機関決定、周知等のステップを踏めば、実施可能な状況である。 ■送付を行うか否かの判断を10月までに行い、実施する場合は次年度に予算化し、次年度より送付を行う。	■入学式における説明について、次年度も実施するか否か検討する。実施する場合は、説明内容の見直しを3月までに行う。 ■成績等の保護者への報告を実施するか否かの判断を10月までに行い、実施する場合は次年度に予算化し、送付する。	■入学式における説明については、9月度の学科長会議において実施することが確認された。今後は、3月までに説明内容を作成する。 ■成績等の保護者への報告については、現在までに実施か否かの判断がされていない。年内に判断を行う。	■入学式における説明については3月までに説明内容を作成し、学科長会議において確認を行う。 ■成績等の保護者への報告については、予定の時期を過ぎてしまったが、現在までに実施か否かの判断がされていない。予算や準備の状況により、次年度に判断を行う。

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題への取組の進め方 年度末点検

2018/7/31
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	○28年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方 ※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
			継続	速記 コンピュータ科	■学生の状況に即して保護者との連携を図り、臨機応変に保護者面談の実施を検討する。	■保護者との連携が必要と思われる事態は発生していない。	■現時点においても保護者との連携が必要と思われる事態は発生していない。	■今年度は保護者と連携する事態は発生していない。
			継続	医療秘書科	■問題がある学生については速やかに保護者に連絡し対処する等の連携を行う。また、必要に応じて保護者を含めた面談も実施する。	■現在のところ保護者へ協力依頼を必要とする状況には至っていない。	■現時点まで2名の退学者が現れた。いずれも保護者への連絡はスムーズであった。	■欠席等により、遅滞なく保護者への連絡を取り状況確認を行った。結果として退学に至りそうな学生を学習へと導くことができ、退学者数が減少した。 ■次年度も継続して努力が必要である。
			継続	医療 マネジメント科	■連携が必要な学生については、速やかに保護者に連絡して対処する。また、必要に応じて保護者との面談を実施する。さらに、それらの実施にあたっては、個人情報保護を遵守する。	■連携が必要な学生については、教員間で協議した上で、速やかに保護者に連絡して対処している。	■欠席が目立つ・学業が極端に不振である等、連携が必要な学生については、教員間の情報交換・共有を元に学科長・各担任が察知し、速やかに本人との面談や、保護者への連絡をすることにより対処している。	■連携が必要な学生については、各教員が方針に基づいて対処したことで、退学者数を減少させることができた。 ■近年、連携が必要な学生については、人数が増加し、対応の難易度も上昇しており、今までの指導の仕方に加え、兼任教員・他部署との連携がより必要だと考えている。
			継続	診療情報管理 専攻科	■問題がある学生については速やかに保護者に連絡し対処する等の連携を行う。また、必要に応じて保護者を含めた面談も実施する。	■問題がある学生については保護者と連携し対処している。	■問題がある学生については保護者と連携し対処している。	保護者と連携し対処すべき問題は無かった。
			継続	医師事務技術 専攻科	■問題がある学生については速やかに保護者に連絡し対処する等の連携を行う。また、必要に応じて保護者を含めた面談も実施する。	■現時点までは保護者との連携が必要な特別な問題が生じていない。	■現時点までは保護者との連携が必要な特別な問題は生じていない。	保護者と連携し対処すべき問題は無かった。
			継続	くすり 調剤事務科	■遅刻、欠席が目立った生徒には、まず生徒にすぐ連絡して改善を促す。改善がみられない場合は保護者への連絡することで、1年生退学者1名にとどまった。今後も、学科としてはこの方式を継続していく。	■2年生で続けて長く欠席している学生1名について、保護者へ連絡し、改善がみられた。	■遅刻欠席の多い2年生3名について、保護者に連絡をして、改善がみられた	■問題あるごとに、継続して保護者と連絡を取ること、生徒の欠席減少に改善がみられている。
			継続	介護福祉科	■6月に1,2年生合同の保護者会を予定している。1年生は6月2週目より、初めての介護実習Ⅰを控えていることと、国家試験受験に向けての保護者との協力と連携を早期に図るため、開催時期を昨年度より早めた。 ■保護者への連絡等は電話連絡や、必要に応じて三者面談を実施している。	■6月11日に1,2年生合同の保護者会と、希望者に個別面談を定めている。 ■保護者への連絡や三者面談を実施するようなケースは現在はない。	■6月11日に1,2年生合同保護者会を実施し、1年生は6名、2年生は4名の出席で国家試験に関する説明と、情報交換をした。希望者に個別面談も実施し、2年生の保護者がご夫婦で参加した。	■6月の1,2年生合同の保護者会は適当であった。1年生は、介護実習Ⅰに入る前であったことと、国家試験の概要と、学科の取り組みを理解してもらう意味でもよい時期であった。 ■2年生は、1年間の国家試験の取り組みや個々の状況を保護者に理解してもらえた。
			継続	鍼灸医療科	■新入生オリエンテーションでは、保護者の参加を促し、学園生活と国家試験までの流れを説明し、理解と協力を得ている。 ■出欠管理と成績は保護者や企業へ送付しており、学生の状況について連携出来ている。引き続き連携を図る。	■新入生オリエンテーションでは保護者参加率80%であった。3年間の学生生活と国試までの流れについて十分な説明を行った。 ■また、学生の出欠管理は毎月毎に企業へ送付している。	■全学年、前期期末試験結果及び3年生は模擬試験結果を合わせて保護者、企業へ送付済み。 ■3年生保護者会を11月初旬に予定している。	■1年生は新入生オリエンテーションに加え学園祭日に保護者面談を実施した。2名の参加があった。 ■3年生の保護者会を11月下旬に実施した。国家試験と卒業に向けての流れを説明し家庭での協力をお願いした。
			継続	看護科	■出席状況、成績は保護者へ送付している。 ■休学から退学に移行するケースが昨年度あった。休学中の保護者・本人との連絡調整における工夫をしてこまめに行っていく。	■担任を中心に、休学中も定期的に連絡を入れていく。 ■また、カリキュラムの都合上聴講すべき科目は受講できるようにしつつ、時間割変更などこまめに連絡している。	■今年度後期休学者1名(1年生)に対しては、担任を中心にGメールなども活用して定期的に連絡をとっている。	■各学年担任を2名としているので、保護者及び該当学生と早期に連絡を取り合い指導を進めている。
6. 卒業生・社会人		○卒業後の相談とフォロー体制の充実、学校選択の重要な観点でもあることから、引き続き前向きな取り組みに期待したい。	継続	校長	■Gメールなどを活用し、進路指導協議会とCSCを中心に、教務委員会(卒業生支援・卒業後研修担当)、校友会事務局とも連携し、具体化を図る。	■進路指導協議会とCSCを中心に、教務委員会(卒業生支援・卒業後研修担当)、校友会事務局、各学科が連携し、具体化を図ることにしている。	■進路指導協議会とCSCが中心となり、具体化に向けた検討に着手した。	■全校的な取り組みとして、徐々にではあるが、具体化が図られている。引き続き、全校的な課題として、前向きに取り組む予定である。
			継続	CSC	■既卒者の就(転)職希望者にも積極的に対応するために既卒求人へ積極的に関わることで、卒業生への就(転)職のフォロー体制を充実させていきたい。また学習面での卒業生向け支援講座の実施にも積極的に取り組んでいきたい。	■現在、既卒者の就(転)職希望者にも積極的に対応している。また学習面での卒業生向け支援講座の実施にも取り組んでいく。	■既卒者の就(転)職希望者にも積極的に対応しており、既卒者の求人の登録、受験先の紹介も進んでいる。また学習面での卒業生向け支援講座の実施にも取り組んでおり、介護分野における喀痰吸引等の講座を実施した。	■既卒者の就(転)職希望者にも積極的に対応しており、今年度1月末時点で、学校で紹介の求人により3名の内定となった。 ■学習面での卒業生向け支援講座の実施にも取り組んでおり、介護分野における喀痰吸引等の講座を実施した。 ■また2/18には診療報酬点数改定の講座を行い、申込者は卒業生38名である。

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題への取組の進め方 年度末点検

2018/7/31
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	○28年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方 ※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
6 教育環境	1. 施設・設備等	○学校内のWi-Fi(無線ネットワーク)設備、また、必要に応じたバリアフリーの目標などの検討が引き続きの課題である。	新規	教務委員会	■卒業後のキャリアアップを支援するため、卒業生支援講座を年度内2回開催する。校友会と連携して、卒業生のニーズに合致した形での実施方法や内容を検討し、より参加しやすい仕組みの構築を目指す。	■本年度より校友会と連携して実施する。第1回は、9月下旬に介護福祉科卒業生を対象に、当時の担当教員を招聘し同窓会を兼ねた形での実施を計画している。第2回は、2月に医事系学科卒業生を対象に、定例化している診療報酬点数の改定に合わせた説明会を予定している。なお、本年度より実施に関する費用は校友会が負担する。	■第1回卒業生支援講座は、介護福祉科卒業生を対象に9月30日に開催した。テーマは新しく業務として加わった「喀痰吸引等」で、30名の卒業生が参加し、キャリアアップを図った。近年にない多数の参加者を得、特定の学科の卒業生に焦点をあて、同窓会的要素を含ませた新しい試みは目的を達成したと考える。 ■第2回卒業生支援講座は、医療事務系学科卒業生を対象に「診療報酬改定説明会」を2月18日に開催予定である。改定に合わせ2年毎に定期的に行っている講座であり、一定数の参加者が見込まれる。	■第2回卒業生支援講座は「2018年度診療報酬点数改定について」のテーマで2月18日に実施した。卒業生38名、在校生21名、その他4名の計63名が参加した。 ■講座終了後の懇親会には多数の教員が参加し、卒業生との交流に努めた。また、卒業生同士の情報交換の機会となったほか、現在の就業状況の把握や医療機関等の情報収集を行った。
			新規	校友会事務局	■卒業生支援講座について、校友会報において前年度の実施報告と本年度の実施案内の記事を掲載し協力している。また費用面では講師料等の補助を校友会費より行っている。今後も講座の充実した実施を支援するため、卒業生が求めている講座の企画を提案していく。	■平成28年度の実施報告を校友会報第48号に掲載する予定で進行している。また本年度の実施計画については、既に決定し、担当講師に依頼を行っている。本年度は参加者数を増やすことも目的としており、ハガキによる開催案内を送付する計画をしている。	■8月に発行した校友会報第48号に、前年度の卒業生支援講座の実施報告と、本年度の実施計画を掲載した。 ■9月30日に開催した本年度第1回の講座には卒業生30名が参加し、目標を達成している。参加促進のため校友会報発行前の7月にガキでの開催案内も行った。 ■2月開催の第2回講座についてはGmailの使用も検討し参加者の促進を検討している。	■2月に第2回の卒業生支援講座を開催し、38名の卒業生が参加した。前年度に比べて参加者も増えており、講座内容と募集方法が有効であったと考える。 ■第2回講座については卒業生への案内にハガキを使用せず、校友会報、ホームページ、G-mailで告知を行った。
	3. 防災・安全管理	○授業中の事故等に関する共通のマニュアルなどの整備が求められる。を進めてほしい。	継続	事務局長	■平成30年以降も、インフラ整備の必要性和予算の優先順位を勘案し、整備を検討したい。	■インフラ整備の必要性和予算の優先順位を勘案し、12月末までに整備を実施するか否かの検討を行う。	■今後、次年度の予算編成と並行して12月までに1次案を作成し、最終的には2月までに整備計画を確定する。	■次年度予算案では、第1PC室リニューアルと病院・薬店演習室、字幕制作・速記者養成科関連を中心に、整備計画を進めている。
			継続	学科長会議	■学校安全管理マニュアル等を参考に、シンプルな形式で作成する作業を学務課と協力して進める。	■今後、学校安全管理マニュアル等を参考に、シンプルな形式で作成する作業を学務課と協力して進める予定である。	■必要な資料の収集は終了しているが、原案の作成には至っていない。資料に基づき原案作成・検討開始し、出来るだけ年度内に制定できるよう、学務課と協力して作業を進める予定である。	■必要な資料の収集は終了しているが、資料に基づいた検討・原案作成には至っていない。次年度への課題であると考えている。
7 学生の募集と受入れ	1. 学生募集活動	○感染症に関しては、学校保健安全法に基づき対応しているが、学内感染を予防するためにも、インフルエンザなどの予防接種についての情報提供を引き続き行うことが必要である。 ○課題としている災害発生時の学内待機、近隣の被災者受け入れなどについては、引き続き近隣との連携をできるところから慎重に整備を進めてほしい。	継続	学務課長	■平成29年度学生生活ガイドにおいて、主に防犯の側面から注意事項を記載したページを追加した。 ■授業中の事故等に対応するマニュアルに関しては、文部科学省・東京都教育委員会等が公表している学校の安全対策・危機管理等の指針等を参考に、平成29年度中に学校危機管理マニュアル案を作成し、学科長会議及び校務運営会議に審議案を提出する。	■学校危機管理マニュアルの原案を現在作成中である。8月中旬に災害対策本部会議メンバーによる確認、9月以降の学科長会議・校務運営会議で審査・承認を経て、常任理事会に提出する予定である。	■7月中旬までにマニュアルのたたき台は完成し、現在事務局長が確認中である。	■引き続き、現在も事務局長が確認中である。
			継続	学務課長	■インフルエンザ他の感染症に関しては、所轄の豊島区を通じて文部科学省・厚生労働省・東京都等から流行情報が配信されている。これらの情報を元に、学務課及び保健室が学内啓蒙のためのポスター掲示(毎月)・学内メール(不定期)等の発信を行っている。 ■予防接種に関しては、学生については一部の学科を除き自己負担となる。教職員については、一部担当の教職員を除き自己負担となる。以上の理由から、接種を行うか否かは、各自の判断に委ねるのが現状であり、より一層の啓蒙活動を行い、接種率を上げていく予定である。	■インフルエンザ他の感染症予防に関しては、保健計画に基づき、毎月の保健だよりを中心に啓蒙を行っている。 ■予防接種に関しては、学生・教職員に対して、自己負担での接種を啓蒙する予定である。(特にインフルエンザに関して、流行期の直前を予定している)	■学生向けの予防接種啓蒙として、保健だよりの10月号～2月号にインフルエンザ及びその他の感染症予防記事を掲載する。 ■教職員向けの予防接種啓蒙として、設置者である学校法人の衛生委員会より、接種の呼びかけを行うよう要請した。	■学生向けの予防接種啓蒙として、保健だよりの10月号～2月号にインフルエンザ及びその他の感染症予防記事を掲載した。また、年末に厚生労働省より流行警報が出された際には、クラス担任を通して、予防接種の呼びかけを依頼した。 ■教職員向けの予防接種啓蒙として、設置者である学校法人の衛生委員会より、接種の呼びかけが学内LANを通じて行われた。
			継続	事務局長	■学生の安全確保を第一とするため、学内待機の体制を平成29年度中に作成する。その上で、被災者の受け入れ等についてのルール・体制の検討を行う。	■平成29年度中に学生の学内待機の体制を作成する。その後、外部被災者の受け入れについて検討を行う。	■現在までに未着手。年度内に学内待機の体制を作成する。	■現在までに未着手。年度内に学内待機の体制を作成する。
新規	募集広報協議会	■協議会メンバーが中心となり、学校の魅力の再言語化や高校訪問、入学案内書の制作、オープンキャンパスの運営改善等について協議を行い、募集活動に対して教職員が一体となって関わる体制づくりができつつある。 ■今後は、学校コンセプトを学内に浸透させ続けていくこと、また年間活動計画の策定を行うことが課題となっている。	■本年度は4月に第1回の募集広報協議会を開催し、ホームページ作成について協議を行った。今後は募集計画、高校訪問、オープンキャンパス等について協議を行う予定である。 ■コンセプトの浸透については代理店との打ち合わせを行い、今後進行していく。	■本年度は、現在まで2回の開催にとどまっている。第1回は4月に、ホームページのリニューアルについて、第2回は医療事務系の分科会として、認知拡大と仕事の魅力等について協議を行った。第3回は10月に医療事務系の分科会として、動画作成等について協議を行う。 ■年間活動計画については事前に示すことができなかったため、次年度に向けて準備を進める。	■10月に第3回協議会を開催し、高校訪問、授業動画等について話し合いを行った。また、2月に鍼灸医療科と、次年度オープンキャンパス、入学案内書等について個別に話し合いの機会を持った。 ■次年度の募集計画については概ね完成しており、今後全体に示していく予定である。 ■コンセプトの進行については、入学案内書や各種媒体紙に新コンセプトを使用し、学外への浸透を図っている。			

平成29年度学校関係者評価報告に示された意見・課題への取組の進め方 年度末点検

2018/7/31
学校関係者評価委員会事務局

大項目	中項目	○28年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方 ※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
9 法令などの遵守	1. 関係法令、設置基準の遵守	○コンプライアンス(法令遵守)に関する専門の相談受付窓口の設置について検討が望まれる。	新規	校長	■学園の「公益通報者保護法に基づく内部通報規程」により、学園外部に相談受付窓口が設けられており、専門学校の教職員及び教職員であった者も相談することができるようになっている。	■学園の「公益通報者保護法に基づく内部通報規程」により、学園外部に相談受付窓口が設けられている。専門学校に在職している教職員だけでなく、教職員であった者も相談できるようになっている。	■学園の「公益通報者保護法に基づく内部通報規程」により、学園外部に相談受付窓口が設けられている。専門学校に在職している教職員だけでなく、教職員であった者も相談できるようになっている。	■学園の「公益通報者保護法に基づく内部通報規程」により、学園外部に相談受付窓口が設けられている。専門学校に在職している教職員だけでなく、教職員であった者も相談できるようになっている。
	2. 個人情報	○学生には、特にSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)について、個人情報保護、プライバシー保護、守秘義務等の観点からの注意喚起が引き続き求められる。	継続	事務局長	■平成29年4月のオリエンテーションにおいても、SNSや個人情報保護についての注意喚起を実施した。 ■新しいタイプのトラブルについては情報収集を継続的にを行い、必要に応じて学生に周知する。	■引き続き個人情報保護に努めるとともに、学生がSNS関連のトラブルを起こしたり、巻き込まれたりしないよう、継続的に情報収集を行う。	■現在まで個人情報に関する問題は発生していない。引き続き情報収集を行い、適宜周知を行う。	■入学時や実習前などに指導を行っており、現在まで個人情報に関する問題は発生していない。引き続き情報収集を行い、適宜周知を行う。
10 社会貢献・地域貢献	1. 社会貢献・地域貢献	○地域交流や生涯学習においては、参加者や受講者に魅力ある講座の開発や効果的な広報手段の検討、また、社会問題への取組においては、引き続き意識的な取り組みの推進が期待される	継続	校長	■夏の豊島区オープンスクールには、引き続き参加することになっている。 ■また、卒業生支援講座や卒業研修については、教務委員会(卒業生支援・卒業研修担当)と校友会事務局が連携し、卒業生のニーズや希望も汲みあげたうえで講座の実施を図りたい。	■夏の豊島区オープンスクールに参加予定である。 ■卒業生支援講座や卒業研修については、教務委員会(卒業生支援・卒業研修担当)と校友会事務局が連携し、卒業生のニーズや希望も汲みあげたうえで講座の実施を図ることとしており、9月末に卒業生支援講座の開催が予定されている。	■7月下旬、豊島区オープンスクールに2講座(速記関連と鍼灸関連)参加し、合計で14名の参加者があった。 ■9月30日の本年度第1回の卒業生支援講座(介護関連)には、合計30名の卒業生が参加した。また、2月18日の第2回卒業生支援講座(医療事務関連)には、合計38名の卒業生(卒業生以外を含む)合計63名が参加した。	■7月下旬、豊島区オープンスクールで2講座(速記関連と鍼灸関連)実施し、合計14名が参加した。 ■9月30日の本年度第1回の卒業生支援講座(介護関連)には、合計30名の卒業生が参加した。また、2月18日の第2回卒業生支援講座(医療事務関連)には、合計38名の卒業生(卒業生以外を含む)合計63名が参加した。
	2. ボランティア活動	○学業が忙しい中で、ボランティア活動の奨励、支援には難しさはあるが、人材育成の観点からも仕掛けを工夫して、引き続き進めてほしい。	継続	事務局長	■平成29年度は、速記分野と鍼灸分野の講座を実施することとなった。	■今年度の実施状況を確認し、次年度の日程・内容等の検討を年末までに行う。	■今年度は速記分野3名、鍼灸分野11名の参加があった。(前年度3講座8名) ■次年度も講座内容、日程の検討を行い、年度末までに決定する。	■今後、次年度の講座内容、日程等の検討を行い、年度末までに決定する。
			継続	学生委員会	■昨年度に学生委員会用のGメールアカウントを取得した。新年度のGメールが利用可能になり次第、ボランティア募集情報を配信する。	■5月に全学生および全教職員(一部を除く)に一斉配信できるメールアドレスをGメール管理者に設定してもらった。6月の委員会から、毎月の委員会で一斉配信の内容を検討し、配信予定。内容はボランティア募集を含めた、個人情報の取り扱いや学生生活に関する注意事項等を予定している。	■学生委員会メールの送信を開始し、1か月に1回以上のペースで送信している。その結果、ボランティア希望者が昨年度の4倍になった。	■学生委員会メールを利用して今年度は現在までに6回ボランティア活動募集メールを送信した。 ■ボランティア参加者が昨年度比の4倍になり大きな効果が得られた。しかし、ボランティアをする学生は夏休みに集中しており、定期的な活動につなげることができていないことが課題。今後促進を図りたい。 ■東専各が公開しているホームページ「ボラ活」にて、他校と共に本校のボランティア活動の様子を紹介した。今後は年に1回か2回更新する予定。